

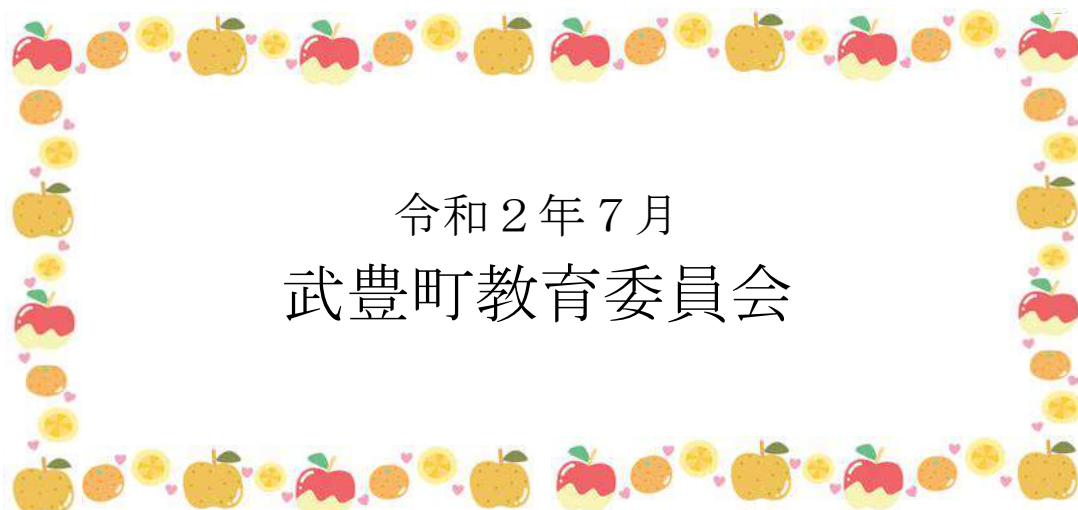
令和2年度（2020年度）

武豊町教育委員会活動  
（令和元年度分）の  
点検及び評価に関する報告書



武豊町マスコットキャラクター

**みそたろう**



令和2年7月  
武豊町教育委員会

## 令和2年度武豊町教育委員会点検評価委員名簿

### 《点検・評価委員》

氏名	所属	備考
林 克次	日本福祉大学非常勤講師	
鈴木 政司	武豊町区長会代表	長尾部部長（小迎区長）
福田 艶子	民生児童委員女性代表	
糸山 剛次	武豊町PTA連絡協議会会長	富貴中学校PTA会長
堀家泰司郎	一般公募	
横井 政和	一般公募	
岩田 晃一	一般公募	

### 《教育委員会》

氏名	所属	備考
加藤 雅也	教育長	
出口 智康	教育委員	
久田 徳彦	教育委員	
小藤 省吾	教育委員	
永田 淑子	教育委員	
木村 孝士	教育部長	
森田 良孝	学校教育課長	
藤井 千絵	学校教育課課長補佐	
稲垣 勉	学校教育課指導主事	
岩田 圭司	学校教育課指導主事	
森田 明男	学校給食センター長	
伊藤誠一郎	生涯学習課長	
西川 正洋	生涯学習課課長補佐	
藤井 信介	町民会館事務長	
青木 隆	町民会館事務長補佐	
石田 修	中央公民館長	
山下 恵広	歴史民俗資料館長	
田中 孝往	スポーツ課長	
横田 覚	スポーツ課課長補佐	

## 目 次

項目	施 策 目 標	所 管	頁
	武豊町教育委員会活動の点検及び評価に関して		1
	武豊町教育委員会機構図		2
1	教育委員会業務の推進		3
2	武豊町学校教育の指針		4
3	武豊町立小中学校児童生徒教員数		7
4	学校の今日的課題に対する教育委員会の取組		8
5	学力向上を目指す事業の推進		10
6	いじめ・不登校対策事業の推進	学校教育課	11
7	教育支援の推進		14
8	保護者負担軽減事業の推進		16
9	教育環境の充実		17
10	保育園、小中学校、高等学校・各機関との連携		18
11	国際理解教育の推進		20
12	安全で安心な学校給食の推進	学校給食センター	21
13	学校給食を通じた食育と地産地消の推進		22
14	学習機会の充実		23
15	情報提供の充実		25
16	人材の育成と活用	生涯学習課 中央公民館	26
17	青少年の健全育成		27
18	生涯学習環境の整備		28
19	文化財の保護・活用	歴史民俗資料館	29
20	町の歴史や文化遺産の再発見と活用		31
21	図書館サービスの充実	図書館	33
22	読書推進		35
23	みんなが文化を楽しむきっかけづくり		38
24	『こども・若者』が豊かな文化の中で育つ環境づくり	町民会館	43
25	芸術と科学による本物体験		44
26	会館の有効活用の促進		47
27	町民が生涯を通してスポーツに親しむことができる環境整備		48
28	総合型地域スポーツクラブの育成支援	スポーツ課	50
29	子どもの体力の向上と青少年健全育成		52
30	スポーツ振興を支える基盤の整備		53
	武豊町教育大綱		55
	武豊町教育委員会点検評価委員会設置要綱		57

# 令和2年度武豊町教育委員会活動（令和元年度分） の点検及び評価に関して

## 1. 報告書の位置づけ

この報告書は、「地方教育行政の組織および運営に関する法律」第26条の規定により、武豊町教育委員会の権限に属する事務の令和元年度の管理及び執行状況について、点検及び評価を実施した結果をまとめたものです。

## 2. 目的

当点検評価内容を広く住民に公表すると同時に、次年度以降の政策や取組に反映させて、当町教育行政の振興を図ります。

## 3. 令和元年度の動向

「自らを高めること」「社会に役立つこと」を基本的視点とした第三次愛知県教育振興基本計画「あいちの教育ビジョン2020」及び、「子どもが健やかに育つまち」を基本目標の一つとする「第5次武豊町総合計画（たけとよ ゆめたろうプラン）」の理念を踏まえて方針を検討しました。また、武豊町教育大綱に基づき、令和元年度学校教育の重点努力目標を、「いのちの教育の推進」「新たな教育課題への積極的取組」とし、知（確かな学力）・徳（豊かな心）・体（たくましい体）のバランスのとれた「主体的に生きる子ども」の育成をめざして事業を展開しました。

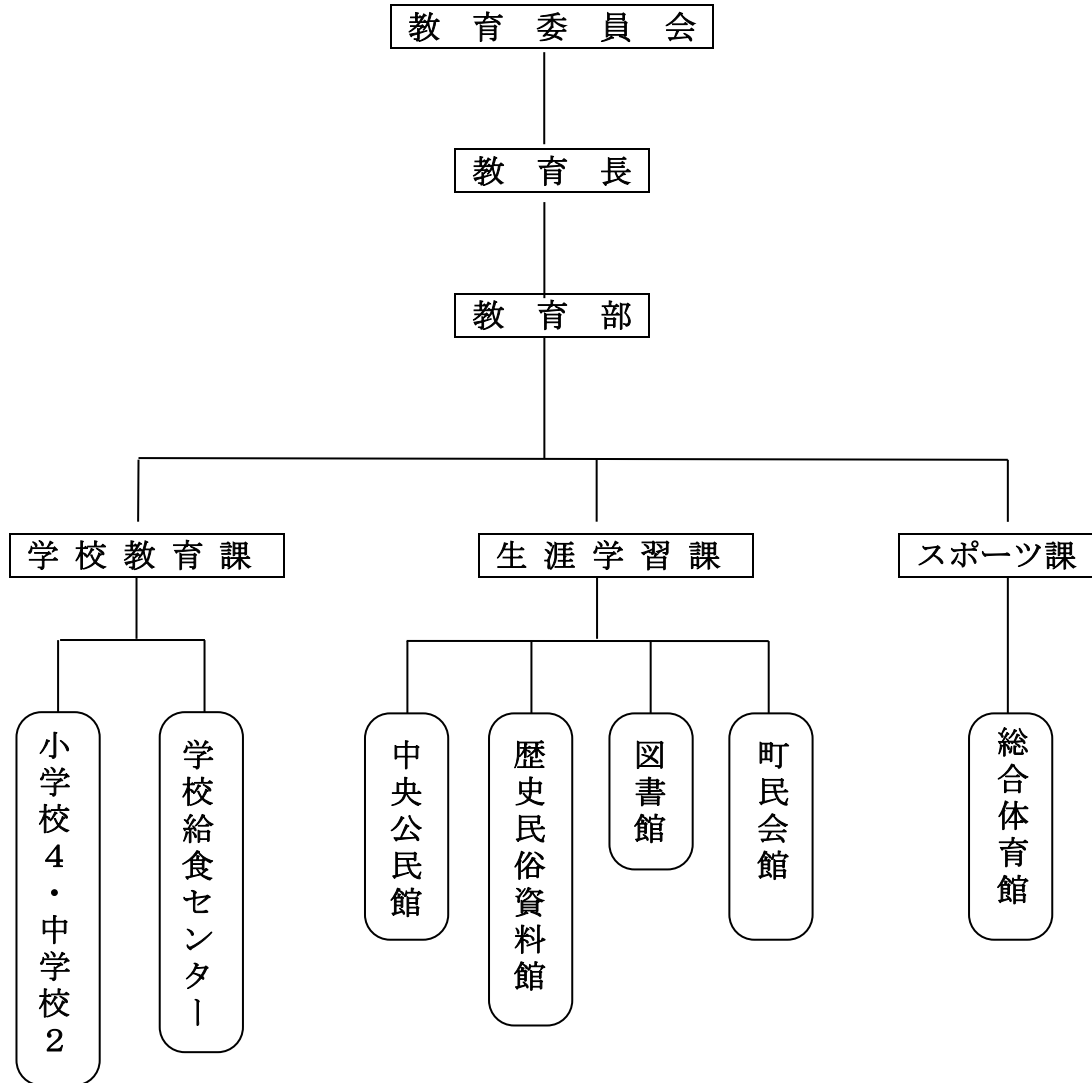
令和元年度は、町長部局とともに2回の総合教育会議を実施し、令和元年度より開始されたエアコンの稼働状況や、スクールソーシャルワーカーの業務に関する報告を行いました。また、教職員の働き方改革に向けた取組、GIGAスクール構想によるICT教育の推進ならびに、学校教育の基本方針の検討などを行いました。

生涯学習では、「心を豊かにし、人をむすび文化をつくる生涯学習のまち」を基本目標として、乳幼児期から高齢者までのライフステージに応じた文化活動やスポーツ活動の充実を図り、各施設でそれぞれの事業を展開しました。

## 4. 評価方法

各所管の主要な施策を主軸に、施策目標、令和元年度の主な取組と成果、今後の課題と対応に沿って自己評価を実施し、「武豊町教育委員会点検・評価委員会」で点検・評価を行います。

# 令和元年度 武豊町教育委員会機構図



1	学校教育課	施策	教育委員会業務の推進
---	-------	----	------------

## ■ 施策目標

- ① 教育委員会の適正運営の実施
- ② 総合教育会議の実施

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

今年度は、多くの新たな取組に対する協議が行われました。その中で、教育委員からさまざまな質疑および意見が出され、有意義な検討・協議を行うことができました。

- ① 教育委員会の適正運営の実施
  - ・教育委員の状況

	委員数	年齢及び性別	職業	保護者枠
教育長	1名	50代 男性	1期目	
委員	4名	60代3名、50代1名 男性3名、女性1名	歯科医師、元小学校長、会社役員 中小企業診断士・社会保険労務士	1名

### ・教育委員会の開催状況

開催回数		付議案件		主 な 議 決 案 件
定例会	臨時会	議案	報告	
11	2	37	69	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財保護委員、いじめ問題専門委員会委員等の委嘱</li> <li>・定例町議会の議案及び補正予算</li> <li>・小中学校の儀式、年末年始行事等</li> <li>・令和元年度 学校教育の指針・重点施策</li> <li>・令和元年度 定期人事異動、辞令伝達</li> <li>・令和元年度 教育委員会事務局各課別事業別予算</li> <li>・教育委員会関連の委員・指導員等の委嘱</li> </ul>

### ・教育委員の主な活動

定例教育委員会、総合教育会議、教育委員会点検評価、辞令交付、教職員人事校長面談、学校訪問、予算要望ヒアリング、小中学生海外派遣事業、入学・卒業式、学校教育実践発表会、成人式、福寿大学、町民文化祭、図書館フェスタ、たけとよスポーツ Day、町教育懇談会 等

## ② 総合教育会議の実施

開催回数		協議案件		協 議 案 件
定例会	臨時会	協議案	報告	
2	0	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の働き方改革に向けた武豊町の取組について</li> <li>・GIGAスクール構想によるICT教育の充実について</li> <li>・令和2年度学校教育の指針・重点施策について</li> </ul>

## ■ 今後の課題と対応

教育長と教育委員、町長部局が互いに綿密な連携を図り、円滑な教育行政の実現が図られています。

今後も、教育委員会主催行事をはじめ、町や学校などの行事へも積極的に参加し、学校現場の様子や児童生徒の状況、保護者や住民の意向等の把握に心がけ、教育委員会での審議に役立てていきます。

2	学校教育課	施策	令和元年度武豊町学校教育の指針
---	-------	----	-----------------

武豊町教育委員会

## 1 学校教育の目標

武豊町の小中学校では、教育大綱に掲げた第5次武豊町総合計画の将来像である「心つなぎ みんな輝くまち 武豊」をめざし、これからの時代に志高く未来を創り出していく人材として、自ら考え行動できる「主体的に生きる子ども」を育てます。

### 第5次武豊町総合計画の将来像

## 「心つなぎ みんな輝くまち 武豊」

基本目標4 子どもが健やかに育つまち（子どもが楽しく学校生活を送っているまち）

## 2 日々の教育活動を通じて育て上げていく子どもの姿

### 求める子ども像

- 確かな学力、豊かな心、たくましい体
- 進んで、あいさつ・返事・整理整頓ができる礼儀と節度をもった子ども
  - 自ら学び、自分の思いや考えをはっきりと表現できる子ども
  - 人々や社会のために役立つことに喜びをもち、進んで行動する子ども
  - 思いやりの心をもち、進んで心や体をきたえる子ども
  - 身の回りの環境を大切にし、清掃活動にはげむ子ども

## 3 日々の教育活動を通じて創りあげる具体的な学校の姿

### 求める学校像

- はつらつとした学校生活、あいさつが行き交う学校、安全・安心な学校
- 子どもが通いたくなる学校  
学ぶこと、友達や教師と関わるのが、楽しいと感じられる学校でありたい。
  - 保護者が通わせたい学校  
日ごろの教育活動を理解し、安心して子どもを任せられる学校でありたい。
  - 教職員が勤めたい学校  
使命感をもち、生き生きと活動できる、明るい教職員集団（学校）でありたい。

## 4 本年度の重点努力目標

### いのちの教育の推進・新たな教育課題への積極的取組

- 自己肯定感・自己有用感をもち、感謝と思いやりの心をもった子どもを育てます。
- 自他のいのちを大切にする心を育て、共に学び合い高め合える学校をめざします。
- 学習規律・生活規範意識の定着を図り、主体的に活動する子どもを育てます。
- 不登校児童生徒に対する組織的な支援を強化するとともに、新たな一人を出さないよう努めます。
- 「特別の教科 道徳」を核として、道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てます。
- 移行期間の「小学校外国語教育」に関する研究を推進し、完全実施に向け積極的に取り組みます。
- 教職員の多忙化解消に向けて、事業・行事の見直し、意識改革を更に推進します。
- 「チーム学校」を合言葉に、家庭や地域・関係機関と連携し、信頼される学校づくりに努めます。

## 5 指導の重点

各校の教職員は、「チーム学校」の一員として校長のリーダーシップのもと、子ども一人一人の成長を願い、教職員の服務規律を徹底し、一致協力して具体的な実践に努める。

### (1) 「いのちの教育」を充実させ、自他ともに尊重する心豊かでたくましい人間性の涵養をめざす。

- ①「ありがとう」の言葉を通し、自己の大切さとともに周りの人の大切さも認めることのできる子どもを育てる。
- ②言動を共感的に受けとめ評価することで、子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高める。
- ③「考え 議論する道徳」を推進し、より質の高い指導方法及び評価について研究を充実させる。

### (2) **新しい時代に対応する教育を推進するとともに、学校や地域の実態を十分に踏まえた特色ある教育活動の実践に努める。**

- ①「主体的 対話的で 深い学び」などに対する理解を深め、「プログラミング教育」などの実践に向けた準備を行う。
- ②移行期間となる「小学校外国語教育」について、町英語部会を中心に研究を推進し、教員の研鑽を深めていく。
- ③ユニバーサルデザインを意識した支援方法を工夫し、「できる・わかる授業」を展開する。
- ④学習規律の定着を図るとともに、学校と家庭が一体となり、家庭学習の習慣化を支援する。
- ⑤子どもの実態と地域の状況を十分に把握し、地域素材を生かした教育活動を展開する。

### (3) **子どもとの心のふれあいを大切に、望ましい生活習慣や社会性の育成に努める。**

- ①「あいさつ・返事・はきものそろえ・ありがとう・ごちそうさま」の態度を育成する。
- ②生徒指導について、町生徒指導研究部会を軸に町内保・小・中学校の連携を密にし、一貫した生活規範意識の確立に取り組む。
- ③いじめ、虐待の早期発見・早期対応に努め、子どもや家庭の状況把握とともに、校内及び関係諸機関との連携を密にして、組織的に対応する。
- ④スクールソーシャルワーカーの働きかけにより、関係機関との連携を一層強め、不登校児童生徒に対して組織的で多様な支援を行う。
- ⑤ゆとりをもって子どもとふれあえるよう、教職員のワークライフバランスを大切にする。

### (4) **「社会に開かれた教育課程」の実現をめざし、家庭や地域社会・関係機関との連携を深め、新しい時代に求められる資質・能力を育む。**

- ①不祥事防止に向けて教職員の資質向上に努め、地域に信頼される学校づくりを推進し、子ども・教職員・地域の人々が協働できる機会や場の充実を図る。
- ②「地域の子どもを地域の大人が育てる」ことを主軸に、開かれた生徒指導に努め、小学校区での家庭教育推進連絡協議会や武豊町生徒指導推進連絡協議会と連携する。
- ③「あいさつ・安全・安心・ありがとう」の3A+1運動を充実し、地域と連携した人がつながる町づくりに協力する。
- ④「あいちの教育ビジョン2020 ー第三次愛知県教育振興基本計画ー」に基づき、自らを高め、社会に役立つことを基本的視点とした「あいちの人間像」の実現をめざす。



【つなぐ】

- 施設・関係機関との連携と活用
- ・役割と責任、感謝と思いやり
  - ・助け合い、認め合い、高め合う心

【みんな】

- 保護者・地域・教育関係団体との連携と協働
- ・学校・家庭・地域の連携
  - ・自然、歴史、文化、科学・スポーツの調和

第5次武豊町総合計画の将来像

【心 つなぎ みんな輝くまち 武豊】



いのちの教育の推進・新たな教育課題への積極的取組

総合教育会議

- 「武豊町教育大綱」の具現化  
町長部局との連携強化  
教育条件整備  
いじめ・不登校問題への対応  
学習指導要領への具体的対応  
教職員の多忙化解消

豊かな心

- 「考え議論する道徳」の推進
- 自己肯定感・自己有用感の育成
- いのちの教育指導案集の活用
- 生活規範意識の定着
- 人権教育の推進
- 福祉実践教室の推進
- 情報モラル教育の徹底
- 小中学校海外派遣事業の推進

確かな学力

- 学んだ知識の活用
- できる・わかる授業の展開
- 学習規律の定着
- 家庭学習の定着
- 小学校外国語活動の推進
- 少人数指導の充実
- 特別支援教育の推進

求める学校像

- はつらつとした学校生活  
あいさつが行き交う学校  
安全・安心な学校

チーム学校

- 子どもが通いたくなる学校  
保護者が通わせたい学校  
教職員が勤めたい学校

知

徳 体

たくましい体

- 学校体育の充実
- ガイドラインに即した部活動運営
- 子ども会、地域スポーツクラブとの連携と支援
- 自他の命を守る防災教育
- 給食残食の減量

求める子ども像

- 確かな学力（自ら学び、自分の思いや考えを表現できる子）  
豊かな心（思いやり・感謝・礼儀・奉仕の心をもった子）  
たくましい体（進んで体をきたえる・汗して働く・やり遂げる子）

主体的に生きる子ども

【令和元年度 推進のキーワード】

- 主体的・対話的で深い学び
- 考え議論する道徳
- 外国語教育
- いじめを許さない学校
- スクールソーシャルワーカー
- 自己肯定感・自己有用感
- ワークライフバランス
- 教職員の服務規律
- 部活動指導ガイドライン

「心を豊かにし 人をむすび 文化をつくる 生涯学習のま

第2次武豊町生涯学習基本構想

3	学校教育課	施策	武豊町立小中学校 児童生徒教員数 (R1.5.1現在)
---	-------	----	-----------------------------

学校名		武豊小			衣浦小			富貴小			緑丘小			合 計		
		組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支
学 年	1 年	4	128	4	2	73	3	3	85	2	4	138	2	13	424	11
	2 年	4	149	9	2	70	4	3	89	2	3	111	6	12	419	21
	3 年	3	119	7	2	75	8	2	76	0	3	122	3	10	392	18
	4 年	4	153	5	2	84	4	3	88	2	3	120	0	12	445	11
	5 年	4	141	3	3	82	1	3	84	2	3	103	3	13	410	9
	6 年	4	135	2	2	66	3	3	87	3	3	120	5	12	408	13
計		23 5	825 (795)	30	13 4	450 (427)	23	17 2	509 (498)	11	19 3	714 (695)	19	72 14	2,498 (2,415)	83
教 員		41 (39)			27 (24)			26 (26)			33 (32)			127 (121)		

学校名		武豊中			富貴中			合 計		
		組	人数	内特支	組	人数	内特支	組	人数	内特支
学 年	1 年	10	344	8	4	119	7	14	463	15
	2 年	8	306	8	3	104	3	11	410	11
	3 年	9	333	10	4	156	2	13	489	12
計		27 4	983 (957)	26	11 2	379 (367)	12	38 6	1,362 (1,324)	38
教 員		59 (51)			26 (23)			85 (74)		

※組の計の下段は特別支援学級数

※人数の（ ）は前年度値

4	学校教育課	施策	学校の今日的課題に対する教育委員会の取組
---	-------	----	----------------------

## 1 新学習指導要領実施に向けて

### (1) 道徳の教科化

令和元年度から、中学校において「特別の教科 道徳」が完全実施されました。昨年度からの小学校と合わせ、小中学校において教科としての道徳教育が始まりました。「考え、議論する道徳」を目標に、新しい指導法の導入や評価の仕方など実践を継続しました。

今後は、小中連携を生かし、義務教育9年間を見通した体系的な指導過程を作成し、道徳教育の充実を図ります。

- 学校訪問を通して、「考え、議論する道徳」や「道徳科の評価」について、職員が実践、研修を積みました。

#### 【成果】

小学校では、児童が主人公の役割を演じながら心情に迫る活動や、道徳ノートを活用し発表前に意見や考えをまとめてから発表するなど、新しい指導法を積極的に取り入れた授業が行われていました。

中学校は、授業研究数35実践（全体69の実践）と、たくさんの道徳の研究授業が行われました。特に、武豊中学校は県の研究指定を受けたこともあり、すべての学級で道徳の授業が行われるなど、「特別の教科 道徳」を意識した指導を行いました。

#### 【課題】

道徳の評価については、学習状況や道徳性に係る成長の様子の記録が重要となります。しかし、全てを記録にすることは難しいので、項目や内容を精選し、ポイントを押さえた評価の仕方の研究がさらに必要です。

また、学習指導要領には家庭や地域の人々、各分野の専門家の活用など、積極的な外部との協力が掲げられています。家庭や地域との相互連携を図ることも重要です。

### (2) 小学校外国語活動・外国語科への対応

新学習指導要領の移行措置2年目として、昨年度同様小学校3・4年生では、年間15時間の外国語活動の授業、小学校5・6年生では、年間50時間の外国語活動を行いました。また、令和元年度は、英語専科教員を小学校に配置し、外国語活動・外国語科について指導の充実を図りました。児童への指導だけでなく、教員へ教材の提供や指導の助言を行うなど、幅広く活躍しました。

令和2年度からの学習指導要領完全実施（小学校3・4年生の年間35時間の外国語活動と小学校5・6年生の年間70時間の外国語科）に向けて、円滑な実施ができるように対策に力を入れました。

- 英語専科教員を配置し、児童の学習内容の理解と教員の力量向上への対策を行いました。

#### 【成果】

町内の全小学校3～6年生までの外国語活動・外国語科の指導を行いました。これま

で同様に配置されているALTとも連携し、円滑な授業を実施することができました。指導の様子を学級担任が観察し、指導法や英語の指示の仕方など力量向上を図ることができました。児童に英語で指示し、英語で活動を開始する場面がいくつも見られるようになりました。

#### 【課題】

令和2年度からは指導時間数が増えるため、英語専科教員とALTの配置では全ての時間数を埋めることができません。学級担任が一人で外国語活動・外国語科の指導ができるように今後も支援していきたいです。また、小学校5・6年生では数値による評価も始まります。評価方法の研修も進めていくことが必要です。

## **2 教職員の多忙化解消**

愛知県教育委員会が策定した「教員の多忙化解消プラン」をもとに、さまざまな実践を行い、各学校における職員の時間外在校時間の縮減に向けた取組を行いました。

#### 【成果】

- 令和元年8月10日～16日を学校閉校日とし、職員の連続休暇を取りやすくしました。
- 部活動ガイドラインを策定し、部活動の活動時間の適正化を図りました。
- 自動音声による電話対応を導入し、勤務時間外の学校での対応を減らしました。
- 在校時間調査を継続し、職員の在校時間の把握と時間外在校時間の縮減に努めました。

#### 【課題】

- 平成30年度に文部科学省から出された「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」によれば、在校時間の上限の目安は1か月45時間以内と示されています。本町での実現に向けてさらなる業務改善、働き方改革が必要になってきます。

## **3 G I G Aスクール構想に向けた取組**

令和元年度に文部科学省から示された「G I G Aスクール構想」に基づき、学校における高速大容量ネットワーク環境の整備と児童生徒一人1台の端末整備、それに伴う学習コンテンツの充足について検討を行いました。

#### 【成果】

- 校内LAN整備に向けて、アクセスポイントが必要な教室について調査しました。
- 端末整備に向けて、文部科学省から示されたロードマップを検討し、本町の整備計画を検討しました。
- 他市町の先進地区に視察を行い、LAN整備状況や端末の活用状況を見学しました。

#### 【課題】

- 整備に向けて、令和2年度中の予算化のための準備を進める必要があります。
- 端末の使い方や活用した授業の構築など、教員の研修が必要になってきます。

5	学校教育課	施策	学力向上を目指す事業の推進
---	-------	----	---------------

## ■ 施策目標

- ① 効果的な小学校外国語（英語）指導へのサポート
- ② スクールアシスタントの効果的な活用



## ■ 令和元年度の主な取組と成果

- ① 効果的な外国語（英語）指導へのサポート……元年度は、町内6小中学校を対象として、小学校に3名、中学校に1名のALT（外国語指導助手）を配置しました。元年度は小学校3・4年生（年間15時間）および5・6年生の外国語活動（年間50時間）のすべての時間にALTを配置することができました。各校配置のALTは複数年継続して勤務しており、各学校の様子を熟知した上で指導ができます。また、英語専科教員が配置され各校を周り指導することで、ALTとの円滑な連携のもと、児童へ適切な外国語指導を行うことができました。さらに、新学習指導要領の全面実施に向けて指導時間が増加することへの対応として、担任が一人で指導を行えるように、ALTや英語専科教員が指導法や正しい英語での指示の出し方について担任に指導することで、教員の研修を行うことができました。

年度	授業の対象	総授業時数	ALT人数
R1	3・4年(15) 5・6年(50)	1580時間	4人
R2	3・4年(35) 5・6年(70)	2520時間	4人
R3	3・4年(35) 5・6年(70)	2555時間	※4人

小学校外国語活動・外国語科の授業時数の推移

今後は評価の出し方について「パフォーマンステスト」や日々の授業の児童の記録についても、派遣業者のプログラムをもとに、評価におけるALTとの役割分担などについて研修を行っていきます。

- ② スクールアシスタントの効果的な活用……教員免許を有し、担任をサポートしながら児童生徒に指導を行うスクールアシスタント（SA）を町で採用し、元年度も全校に配置しました。元年度のスクールアシスタント配置人数は6校で19名、延べ10,282時間の指導を行いました。各学校において、支援の必要な学級に配置がされ、授業中における個別指導・支援を担っています。学校訪問等でも、担任と協同した指導を積極的に行う姿が見られました。

## ■ 今後の課題と対応

担任が一人で小学校外国語科・外国語活動の時間を指導する場面が今後、増えてきます。英語に不慣れな教員や抵抗を感じる教員も多く、適切な指導ができるように研修等を重ねていきます。一方で英語免許を所持する教員や外国語に長けた教員も増えてきています。こうした教員とも連携を図りながら、教員の外国語の苦手意識を払拭していくことが重要です。

また、スクールアシスタントはここ数年一定数が配置され、各校の指導・支援を行う上で欠かせない存在になっています。ただし、配慮が必要な児童生徒が増加傾向にある中で、増員などの要望も予測されます。予算の中で計画的に適切な配置を行うためにも、今後も、各学校の状況等を注視しながら、対応を検討する必要があります。

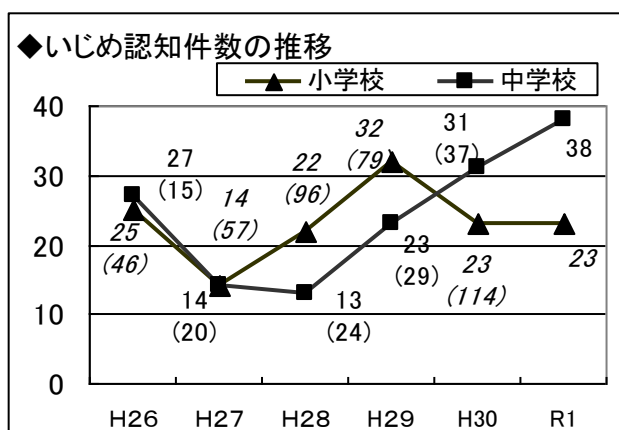
6	学校教育課	施策	いじめ・不登校対策事業の推進
---	-------	----	----------------

### ■ 施策目標

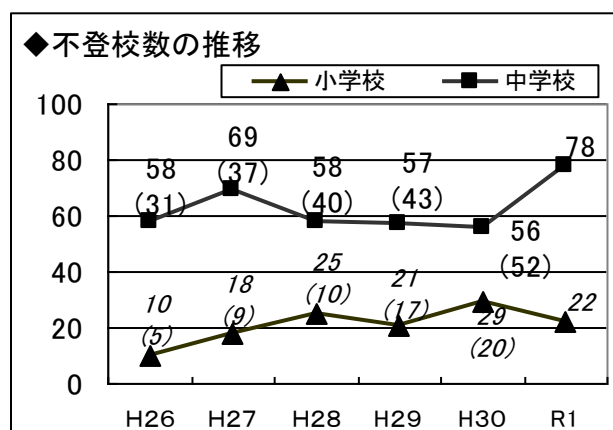
- ① いきいきスクール推進事業の継続
- ② スクールサポーターの継続配置
- ③ 武豊町適応指導教室「ステップ」の継続運営
- ④ スクールカウンセラー活用事業の継続
- ⑤ スクールソーシャルワーカー導入



### ■ 令和元年度の主な取組と成果



( ) 内は愛知県平均



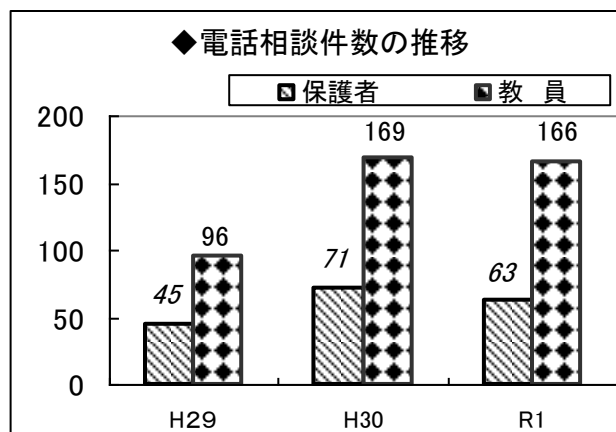
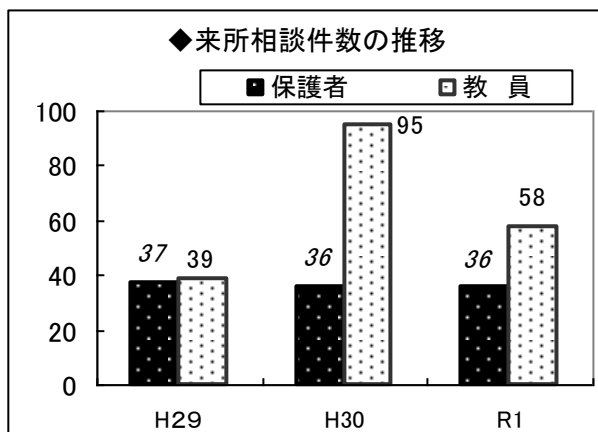
( ) 内は愛知県平均

いじめの認知件数は、ここ数年で増加の傾向にあります。各校においていじめに関わる事案をしっかりと把握することが進められてきている中で、中学校は増加の傾向が続いています。愛知県の平均より認知件数が少ない傾向にあります。また、不登校の人数は、中学校で増加の傾向が見られます。小中学校ともに、愛知県の平均よりも多い値となっています。元年度、いじめによる30日以上欠席があった案件、いわゆる重大事態に当たるものは、小中とも該当はありませんでした。

- ① **いきいきスクール推進事業の継続**……元年度も両中学校の校内における適応指導教室を設置し、町職員の配置を行いました。元年度は、武豊中学校「いきいき」で受け入れた人数は、実数で25名、富貴中学校「オアシス」で受け入れた人数は、実数で6名でした。また、元年度から小学校に適応指導教室指導員を1名配置し、4校を巡回して支援に当たりました。小学校の適応指導室で受け入れた人数は、4校の実数で4名でした。これらの適応指導教室を活用し、登校渋りの兆候が見られるようになった段階で早急に対応し、欠席が続く前に予防的な対応を図ることができました。
- ② **スクールサポーターの継続配置**……不登校や問題行動児童生徒のサポートを目的として、元年度も学校教育課に1名配置をしました。各学校や町適応指導教室「ステップ」等と連携し、担任に代わり家庭訪問や付き添い登校をしました。児童生徒だけでなく、保護者にとっても大

きな支援となっていました。元年度は、最大で 11 名の児童生徒に対応をしました。

- ③ 適応指導教室（ステップ）の継続運営……砂川会館を拠点に、学校に行けない児童生徒の復帰支援及び保護者等の教育相談事業を展開しました。元年度は教育相談員 1 名・指導員 1 名・メンタルフレンド 4 名の体制で、入級者 8 名（H30 は 11 名）に対応しました。学級内で上手に人間関係が作れなかった男子がステップ内で新しい人間関係を構築し、自信をつけて学校に復帰していく姿も見られました。2 名が学校復帰につながっています。



ステップにおける相談件数の推移

- ④ スクールカウンセラー活用事業の実施……児童生徒や保護者・教員へのカウンセリングのために、両中学校に 1 名ずつ、全小学校で 1 名（衣浦小学校が拠点校）、計 3 名のスクールカウンセラーが県費職員として元年度も配置され、延べ 624 時間の勤務を行いました。また、町独自の予算で、中学校の相談活動の充実を目的に、70 時間分追加の配当をしました。

小学校では、4 小学校でのべ 173 件の相談を行い、中学校では 2 校でのべ 509 件の相談を受けました。小学校の相談では、不登校傾向の児童がカウンセリングを行う中で、心的ストレスを解消し、登校できるようになったり、育児に悩む保護者が、子育てについて相談したりするなど、カウンセラーが効果的に機能した事例が多くあがっています。



- ⑤ スクールソーシャルワーカー活用事業の実施……元年度よりスクールソーシャルワーカーを導入し、小中学校を巡回して、児童生徒また保護者対応を行っています。不登校や学校不適応など問題行動が見受けられる児童生徒と面談を行ったり、担任とともに家庭訪問をし、保護者と面談をしたりする中で、問題の根源を探り、適切に他の外部支援機関につないだり、関係機関と情報共有をしたりして、問題解決に向けた取組を行っています。

小中学校からは大変好評で、児童生徒や保護者また教職員から多くの信頼が寄せられています。また、役場内にある子育て支援課や児童相談所とも円滑な連携が図られており、緊急な対応が必要な事案や入学前に配慮しなければならない事案について迅速かつ的確に対応できています。

(元年度資料)

関わった件数	関係機関を連携した件数	解決または解決途中の件数
小学校 54 件	小学校 46 件	小学校 19 件
中学校 28 件 計 82 件	中学校 22 件 計 68 件	中学校 14 件 計 33 件

## ■ 今後の課題と対応

① **いきいきスクール推進事業の継続**……中学校では、不適応を起こす生徒が増えつつある現状があります。元年度は両中学校で 31 名おり、教室が手狭になっている状態です。自分の学級へ復帰していく生徒もいますが、不適応を起こす前に生徒の異変や困りごとに早期に対応することも重要であると考えます。担任や養護教諭、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、生徒の問題に寄り添い、不適応を起こさないように支援することも重要です。また、小学校の校内適応指導教室の成果も上がっています。4校に一人の指導員なので、週1回の指導教室となっています。小学校については、今後は時間数の増加などについても検討をしていく必要があると考えられます。

② **スクールサポーターの継続配置**……スクールサポーターが対応している案件は、児童生徒や保護者との信頼関係に基づき、学校と連携しながら、本人に登校刺激を与えたり、本人や家族と学校の情報を共有したりするものがあります。元々、不規則な生活を過ごす児童生徒も多く、対応の時間が不定期であったり、毎日対応しなければならない事案があったりと、対応の仕方が複雑で難しいものもあります。今後人員が変わった際に、現在の職員と同じ対応を行うことができるかどうかという心配があります。不登校児童生徒は、特に心理面での配慮が必要であるため、対応を継続していくための方法についても今後検討が必要です。

③ **適応指導教室（ステップ）の継続運営**……元年度は中学生の学校復帰なども含め、よい成果を出すことができました。しかし、例年、人数増加に伴い、現状の活動場所では対応が十分にできないという反省が出ています。ステップを利用する児童生徒については、特に個別の配慮を必要とする場合が多く、一部屋で活動できる人数が限られてしまいます。他の大きな場所への移転も模索していますが、現時点は有効な候補場所が見当たりません。今後、現在の場所での適正人数や活動内容を考えた効果的な使用や代替場所について検討する必要があります。

④ **スクールカウンセラー活用事業の実施**……スクールカウンセラーの需要については、町内のどの小中学校においても、有効に活用されています。また、町費で補充を行っている中学校においても、効果的に活用されており、成果も出ています。

課題は、現状の県費の派遣だけでは十分な対応ができていないということです。小学校は現在1名の派遣で、各学校の訪問機会は月の面談回数も数回に限られてしまいます。中学校においては、各校、週1回の訪問はありますが、希望される案件を考えると、時間数が十分であるとはいえない状況にあります。小学校にもおいても町費で補充を行うなど、児童のカウンセリングにも支援を行っていく必要があります。

⑤ **スクールソーシャルワーカー活用事業の実施**……各校においてスクールソーシャルワーカーが有効に活用されています。しかし、生育歴や家庭環境において問題を抱える児童生徒または保護者は多く、またその問題も根深く簡単に解決できる事案ばかりではありません。一人のスクールソーシャルワーカーで対応できる件数に限界があることから、今後、相談件数や内容を見定めて、配置の仕方や増員などを考えていく必要があります。



7	学校教育課	施策	教育支援の推進
---	-------	----	---------

## ■ 施策目標

- ① 特別支援員の継続配置
- ② 教育支援委員会の実施
- ③ 日本語指導教室の継続運営
- ④ 国際交流員の活用



## ■ 令和元年度の主な取組と成果

ここ数年では、特別支援学級に在籍する児童生徒は増加の傾向にあります。また、通常学級に在籍している児童生徒でも、特別な支援を要する児童生徒がおり、その数も増加の傾向にあります。さらに、外国からの帰国子女の転入や外国籍児童生徒の編入も増えてきており、日本語指導の必要性も増しています。児童生徒一人一人の特性を把握し、個に応じた適切な支援ができる体制づくりは各校の教育活動を支えるものであり、その推進がもとめられています。

### ◆令和元年度特別支援学級児童生徒の状況 ( )内は平成30年度の状況

	知的	情緒	肢体不自由	合計
小学校	38 (32)	41 (41)	1 (1)	80 (74)
中学校	18 (12)	19 (14)	1 (0)	38 (26)
合計	56 (44)	60 (55)	2 (1)	118 (99)

### ◆日本語指導を必要とする外国籍の児童生徒 ( )内は平成30年度の状況

	ポルトガル語	フィリピン語	中国語	その他	合計
小学校	12 (13)	3 (1)	1 (1)	1 (3)	17 (18)
中学校	6 (5)	2 (0)	0 (0)	0 (1)	8 (6)
合計	18 (18)	5 (1)	1 (1)	1 (4)	25 (24)

- ① **特別支援員の配置**…特別支援員は、児童生徒の特性上、安全に配慮が必要であり、個別に対応が必要と判断された場合に配置されるもので、元年度は、武豊小学校(2)、富貴小学校(1)、緑丘小学校(1)、武豊中学校(2)、富貴中学校(1)を対象として、町から7名の配置を行いました。個々の特性が多様化し、支援の内容も異なる中で、きめ細やかな対応を行い、児童生徒が安心安全に学ぶ場を保障することができています。
- ② **教育支援委員会の実施**……元年度も、各関係機関の方を委員として招き、小中学校在籍者および新入学者を対象とした教育支援委員会を年2回行いました。対象者は48名(30年度は54名)でした。就学先を検討する必要がある児童生徒の数は増加しているものの、事前の相談や打ち合わせによって協議内容は精選されつつあります。また、教育支援を充実させるために、特別支援教育に関わる実務者(保育園・小中学校・高等学校・関係機関)を対象とした研修も

年2回実施しました。元年度は、教育支援計画の活用の仕方について町内の先進校の取組を紹介したり、自立支援協議会や放課後デイサービスなどの外部団体とも諸課題について情報共有をしたりと、よりよい教育支援計画の活用について共通理解を図ることができました。

③ **日本語指導教室の設置**……日本語の理解が不十分な児童生徒への支援のため、県費により日本語指導担当教員が1名配置され、衣浦小学校を拠点校として、全小中学校を巡回して個別の指導を行いました。元年度は、小中学校合わせて24名の児童生徒の指導を行いました。また、国際交流員も別枠で日本語指導を行い、増加する需要に対応しました。元年度は16名の児童生徒に対応を行い、語学支援や教科指導の支援を行いました。また、日本語がほとんど話せない児童生徒に対しては、国際交流員が初期指導を行う機会を設けました。

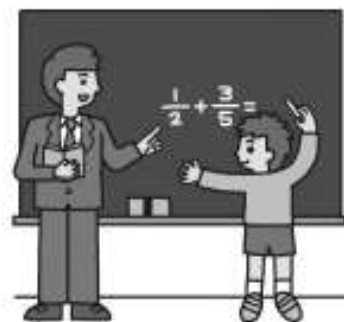
④ **国際交流員の配置**……平成28年7月から、国際交流員（ブラジル国籍）を1名配置し、各小中学校での日本語指導を必要とする児童生徒への学習・生活支援を行うとともに、通訳・翻訳を通じた日本語の理解が不十分な保護者への対応も行いました。保護者会に同席をしたり、学校から出される各種通信や連絡を翻訳したりするなど、きめ細やかな対応が図れています。元年度は町内の5校に在籍している日本語指導が必要な児童生徒に対して、サポートを行いました。

また、元年度は新規事業として「ポルトガル語講座」を中央公民館において開設し、6回に渡り、一般応募で参加した町民に語学と文化紹介を行いました。8名の参加があり、毎回大変好評で、今後も継続してほしいとの要望もあがりました。

## ■ 今後の課題と対応

特別な配慮が必要な児童生徒および日本語教育が必要な児童生徒は増加の傾向にあります。また、その支援内容も多様化し、安全安心な学習環境や生活環境を確保するためには、きめ細やかな個別の対応が必要となってきます。現在配置されている人員で対応できる人数は限界にきており、今後の状況を考えると、指導の効率化や他の機関との連携など、指導の質や幅を深めたり広げたりする必要があります。

また、国際交流員の配置については、令和2年度に配置事業の期限修了を迎えます。国際交流員の必要性は高まっており、継続事業として、町全体で検討する必要があると考えます。新しい体制で国際交流員を配置する際には、学校での日本語指導だけでなく、町全体の国際理解充実に向けた取組を行うなど、広い視野で国際交流員の活用を考えていく必要があります。



8	学校教育課	施策	保護者負担軽減事業の推進
---	-------	----	--------------

## ■ 施策目標

- ① 私立幼稚園就園奨励費補助の充実
- ② 私立高等学校授業料補助の充実
- ③ 要保護・準要保護児童生徒援助の充実
- ④ 日本スポーツ振興センター共済掛金負担の充実
- ⑤ 林間学校費補助の充実
- ⑥ 部活動費補助の充実

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 私立幼稚園就園奨励費補助の充実

私立幼稚園に通園する保護者の経済的負担軽減のため、所得等に応じ授業料・保育料の補助を実施しました。令和元年10月から幼児教育無償化制度に含まれ、事務の所管課が変更したため、今年度は9月までを対象期間として補助しました。

### ② 私立高等学校授業料補助の充実

私立高等学校等就学支援金制度はあるものの、所得制限により授業料の負担が生じている私立高等学校生徒の保護者に対して、申請により上限12,000円の補助を行いました。

### ③ 要保護・準要保護児童生徒援助の充実

生活困窮世帯の児童生徒の保護者に、給食・学用品費のほか修学旅行等の費用の一部を援助しました。

### ④ 日本スポーツ振興センター共済掛金負担の充実

学校管理下における児童生徒の負傷、疾病に関し、必要な給付を受けるための保険加入掛金を全額負担しました。

	H27	H28	H29	H30	R1
私立幼稚園就園奨励費補助（人）	57	45	50	50	39
私立高等学校授業料補助（人）	80	77	96	100	104
要保護児童生徒援助（人）	3	5	2	1	4
準要保護児童生徒援助（人）	283	311	322	328	349
日本スポーツ振興センター（件）	543	420	446	653	554

### ⑤ 林間学校費補助の充実

林間学校に参加する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、林間学校の食材費を除く補助の充実に図りました。

《小学校》 4小学校5年生対象（407人） 6,099円/人

《中学校》 武豊中1年生、富貴中2年生対象（439人） 8,714円/人

### ⑥ 部活動費補助の充実

競技参加登録費、ユニホーム代、消耗品の一部を補助しました。令和元年度は、武豊中陸上部・バレー部・体操部、富貴中卓球部・サッカー部・陸上部の生徒が東海・全国大会へ出場しました。

## ■ 今後の課題と対応

令和元年度も、各事業により保護者負担の軽減を継続して推進してきました。義務教育の中で、すべての児童生徒が公平に教育を受ける機会を得られるためにも、経済的な支援を必要とする保護者に対しては、学校給食費・学用品費・新入学費・修学旅行費等の援助を継続していきます。また、私立高等学校授業料補助事業については、授業料の学校間格差もあり、国の助成額等の動向を見極め、補助限度額の範囲内で補助していきます。

9	学校教育課	施策	教育環境の充実
---	-------	----	---------

## ■ 施策目標

- ① 営繕・維持工事の推進
- ② 安全対策の推進

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 営繕・維持工事の推進

安全・安心な教育環境を保つため、緊急性を考慮しながら必要な環境整備を行いました。

【小学校】…小学校施設空調設備設置工事、衣浦小学校中庭ブロック塀撤去工事・多目的トイレ新設工事、武豊小学校工作物補強工事・北側板柵等撤去工事、富貴小学校工作物補強工事、緑丘小学校ジャングルジム撤去工事

【中学校】…中学校施設空調設備設置工事、富貴中学校南館トイレ改修工事・高架水槽取替工事・特別支援教室改修工事



▲衣浦小学校多目的トイレ新設工事



▲富貴中学校高架水槽取替工事

### ② 安全対策の推進

町のメール配信システムを活用して、町及び各校より緊急情報の提供や注意喚起を行っています。令和2年3月時点で登録した小中学校保護者のアドレス件数は、3,357件となっています。保護者には、タイムリーな情報提供をしており、学校と保護者が連携して、子どもたちの安心・安全の確保に努めるようにしています。

## ■ 今後の課題と対応

学校施設の老朽化による劣化等の営繕・維持工事を今後も継続的に実施していきます。

また、防災・防犯の観点から、緊急時に適切に対応するためには、日頃からの情報共有が大切であると考えます。そのために、学校警察連携制度の充実や地域の方との情報交換会の実施、子どもかけ込み110番登録者への協力依頼等により、一層の安全確保に努めていきたいと思っております。特にライオンズクラブと提携した3A（あいさつ・安全・安心）運動につきましては、登録者は約4,100人と年々増加しています。この事業は大きな成果をあげていますので、今後も実施していきます。

令和2年度には、通学時における防犯並びに交通安全対策として、通学路等に防犯カメラ及びガードパイプの設置工事を行ってまいります。今後も、学校、PTA、役場関係者等で随時通学路を点検し、見守り隊等の団体とも協力して、安全・安心な環境づくりを協議してまいります。

10	学校教育課	施策	保育園、小中学校、高等学校、各機関との連携
----	-------	----	-----------------------

## ■ 施策目標

- ① 教育支援委員会実務者会議における連携
- ② 要保護児童対策地域協議会における情報共有
- ③ 学校公開日、学校訪問、学校行事等における交流の実施



## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 教育支援委員会実務者会議における連携

幼児・児童・生徒支援の理解を深め連携を強くするために、保育園、学校関係者、町の関係機関およびNPOなどの外部団体が集まる教育支援委員会実務者会議を年2回実施しています。元年度は、学校関係者と放課後デイサービスの関係者が、教育支援計画（「み・み・た」のサポートファイル）の効果的な活用について、先進校の活用事例を参考に学習し、情報交換等を行いました。今後も、地域と連携した支援についての話し合いを継続していきます。

#### 【実務者会議参加】

	保育園関係	小中高校関係	関係機関	施設・団体
参加者 参加団体	9園 ・園長 ・園長補佐 ・子育て支援センター	7校 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・特別支援学級担任 ・通級指導担当	2部署 ○子育て支援課 ○保健センター	8団体 ○NPO法人 ○放課後デイサービス ○知多南部相談支援センター ○社会福祉協議会

### ② 要保護児童対策地域協議会における情報共有

町内に居住する幼児・児童・生徒の健全育成を目指し、子育て支援課が中心となって開催する要保護児童対策地域協議会に本課も参加して、幼児・児童・生徒の状況や家庭環境の変化等について、情報の共有やケース会議を行っています。虐待等の疑いや問題事案に対しては、知多福祉相談センターや半田警察署、町保健センターなどの協力も得ながら、未然防止・健全育成に向けて取り組んでいます。

また、元年度からスクールソーシャルワーカーが導入され、小中学校で得た情報を円滑に協議会に提供することができ、小中学校との橋渡しや繋ぎ役として、学校教育と要保護児童対策地域協議会との連携を行いました。

	平成30年度		令和元年度		
	世帯数	人数	世帯数	人数	備考
要保護	5	7	8	12	ネグレクト4、身体虐待3、心理虐待5
要支援	7	13	18	27	
特定妊婦	0	0	0	0	

(参加者) スクールソーシャルワーカー、学校教育課、子育て支援課、福祉課、健康課  
半田保健所、知多福祉相談センター、主任児童委員、人権擁護委員、半田警察署

### ③ 学校訪問、学校公開、学校行事等における交流の実施

学校訪問においては小中学校同士の参観交流を行っています。訪問要項を交換し、指導案や授業の流れを理解した上で参観するなど、効果的な研修機会ととらえ、授業の空き時間等を利用して、積極的に参加しています。

また、小学校の両親学級などの学校公開日や運動会などの学校行事の際には、各園から先生方が見学に訪れて、小学校にあがった卒園児の様子を確認したり、小学校で行われている教育内容について触れたりできる機会として活用をしています。

さらに、子育て支援課とも協力し、学区にある保育園の授業参観をしたり、園児が学校と交流活動を行ったりするなど、園と小中学校が連携して教育を進める場も設定しています。これらの活動を通して、異校種への理解が深めることができました。



## ■ 今後の課題と対応

児童・生徒の特性を理解した継続的な支援は、子どもたちの健全育成にとっては不可欠なものです。今後も一層の連携強化が求められる中で、子育て支援課、学校教育課および健康課や社会福祉協議会などと課や枠を超えて連携を図っていく必要があります。

要保護・要支援の家庭が増える傾向にあり、今後も虐待の件数、緊急保護の事案も増えることが予想されます。学校のもつ情報や指導だけでは対応が難しいケースに対しては、スクールソーシャルワーカーを中心に子育て支援課、福祉課との連携はもちろんのこと、民生・児童委員、保護司、人権擁護委員との連携、さらに町の関係機関や警察・福祉相談センターとの連携を深めていきます。これまでの保育園、小学校、中学校、高等学校といった「縦の連携」に加えて、町内にある各施設との「横の連携」も含めた意識の共有を図っていきます。

今後、子どもを巡る問題は複雑化・多様化してくると考えられます。異校種や関係機関との連携を図りながら、丁寧に対応していく必要があります。また、問題の一つ一つを検証して、解決への道筋を明らかにし、各機関の負担を減らす取組も行っていく必要があります。

今後も“武豊はひとつ”の合言葉を一層意識しながら、「顔の見える交流（連携）」実現のため、具体的な交流場面の設定や連携の在り方について、しっかりと意見交換をしながら、必要な内容についての検討をしていきます。

11	学校教育課	施策	国際理解教育の推進
----	-------	----	-----------

## ■ 施策目標

- ① 武豊町小中学生海外派遣事業の実施（オーストラリア・ザビア校との交流）
- ② 韓国・大光初等学校との交流

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

- ① 武豊町小中学生海外派遣事業（オーストラリア・ザビア校との交流）

元年度は、6泊7日（8月19～25日）の日程で、児童28名（衣浦小学校5・6年児童4名、武豊中学校および富貴中学校1・2年生徒24名）と引率者4名（団長：富貴中学校長、引率教員3名）の合計32名の派遣となりました。現地では、ザビア校の児童との交流活動、ホストファミリー宅でのホームステイ、市内観光などの体験および見学を行いました。また、派遣当日だけでなく、夏休み中には4回の事前学習を行い、英語での日常会話の学習や出し物等の練習を行いました。さらには、帰国後の9月22日には「帰国報告会」も実施しました。「報告書」からは、異文化への理解を深め、国際社会に貢献しようとする、人としての成長をそれぞれ見ることができました。



- ② 韓国・大光初等学校との交流

令和元年度事業として、来日する韓国・大光初等学校児童との交流を計画していました。しかし、日韓関係を巡る社会情勢の影響を受け、韓国側から元年度の児童、教員の来日が難しいとの連絡を受けました。残念ながら、元年度の交流活動を行うことができませんでした。

李ヨンイム校長からは、「長年にわたり積み上げてきた信頼と友情はかわりない」との気持ちも受け取りました。教育委員会としても今後とも親善交流を続けたいと考えております。

## ■ 今後の課題と対応

海外派遣事業への関心は高く、令和元年度は、28名の定員に対して小中学校生96名の応募がありました。事前研修で十分に学習や参加意識を高めて参加させたものの、出発前から体調を崩してしまった児童生徒もあり、現地で医者の治療が必要な場面もありました。今後の研修に体調面の指導も生かしていきたいです。

令和2年度の交流活動は韓国・大光初等学校への訪問とオーストラリア・ザビア校からの受け入れが予定されています。しかし、元年度末に韓国側から、日韓関係情勢を鑑み、「今後の交流の方法、時期など様々な面で深みのある議論が必要であり、やむを得ず、受け入れが難しい」との連絡を受けております。また、オーストラリア・ザビア校からは、現地教育委員会の規則変更に伴い、交流について今後見直しを行いたいとの連絡を受けております。

長年にわたって続けてきた、交流活動ですが、実施の仕方や方法について大きく見直しが必要な段階になっております。厳しい情勢ではありますが、今後できるだけ多くの児童生徒に国際交流の機会を提供できるよう進めていきます。

1 2	学校教育課 学校給食センター	施策	安全で安心な学校給食の推進
-----	-------------------	----	---------------

## ■ 施策目標

- ① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供
- ② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 安全で栄養バランスのとれたおいしい給食の提供

給食の献立は、町内栄養教諭が学校給食の栄養基準を考慮したうえで、各学校給食主任の教諭と隔月の定例会で協議し作成しています。また、各学校で栄養教諭が児童生徒に対して実施している食の指導等により、食べ物の大切さや食の関心が高まり、町内小中学校の給食の残食率は、主食、牛乳を除いて小学校 1.8%、中学校 0.4%と県内の学校に比べてかなり低い率を維持しています。

また、近年増加傾向にある児童・生徒の食物アレルギー対応として、愛知県教育委員会「学校におけるアレルギー対応の手引き (H28. 2)」に基づき、学校、学校教育課(給食センター含む)、アレルギー対応が必要な児童生徒の保護者が面談を行い、除去食や豆乳への代替など、個別に対応しています。令和元年度に対応した児童生徒は、33 人でした。

年 度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和元年度
アレルギー対応児童生徒 (人)	13	15	22	30	33

### ② 衛生管理の徹底と調理環境の整備充実

衛生管理に関しては、委託会社の調理員が研修に積極的に参加し、知識・技能の向上に努めています。また、日常の調理業務時においても、委託会社と綿密に情報交換を行ったうえで、栄養教諭が指導を行っています。この委託会社とは、第 5 次行革プランに基づきプロポーザル方式の入札により選定された委託会社となっており、令和元年度から 5 年間の長期継続契約を締結しております。委託内容は、給食の調理、学校への配送・配膳、回収、食器類の洗浄、施設の清掃等となります。プロポーザル方式により委託会社を決定したことにより、学校給食の調理・衛生管理等のノウハウが一層高まり、安全で安心な学校給食を提供することができております。

一方、食材は町が購入し、町の献立や指示書に従って委託業者が調理を行っているため、質の低下は見られません。

## ■ 今後の課題と対応

昭和 50 年に施設が建設されて 45 年が経過し、施設・設備とも老朽化が進んでいます。

毎年夏休み期間中に行っている調理機器等の点検結果に基づき、計画的に更新や修繕及び施設の改修工事を実施していますが、多額の経費が必要となってきたため、建替えも視野に入れた大規模な改修が必要となってきます。



13	学校教育課 学校給食センター	施策	学校給食を通じた食育と地産地消の推進
----	-------------------	----	--------------------

## ■ 施策目標

- ① 学校での食の指導・家庭への啓発
- ② 地場産物の活用等

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 学校での食の指導・家庭への啓発

町内の栄養教諭が、食に関する年間指導計画を作成し、各学校での食に関する指導を行いました。児童生徒が、正しい食事の在り方や望ましい食習慣を身に付け、食事を通じて自らの健康管理ができるように指導を繰り返しました。また、毎月配布している献立表や学期に1回配布している「給食だより」により、家庭へも食の啓発を行っています。



【卒業お祝い給食を楽しむ生徒】

その他、2学期末にはデザートを選ぶ「セレクト給食」、3学期末には中学校<sup>※1</sup>の卒業生を対象としたバイキング形式の「卒業お祝い給食」など選択形式で、適量や楽しく会食するためのマナーを学ぶ給食も実施しました。

一方、給食センターでは、各小学校の児童や保護者の見学・試食を受け入れ、給食センターへの理解を深めていただくとともに、夏休みには「親子料理教室」を開催し、親子で食事を作る楽しさ・食べる楽しさを体験する手助けとなる教室を開催しました。

※1 小学校の卒業生は3月に「卒業お祝い給食」を実施する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染防止のため、学校が3月から休校となりましたので実施できませんでした。

### ② 地場産物の活用等

地元で取れた安全で新鮮な食材を、農業団体等との連携を図りながら、給食に積極的に取り入れました。特に、6月、11月、1月には、「食育月間」「学校給食週間」等の期間に合わせて、各1週間を特に地元の食材を多く取り入れた献立としました。さらに武豊産の大豆は、前年度のうちに1年間の給食で使用する量を確保し、料理に応じて、水煮、豆腐、納豆などに加工して給食に使用しました。

## ■ 今後の課題と対応

食育については、定期的かつ継続的に栄養教諭が中心となり、児童・生徒に働きかけていきます。また、親子料理教室を夏休みに開催し、保護者の食に関する意識の啓発を図りました。こうした活動が、正しい食習慣の定着につながるものと考え、引き続き学校・家庭と連携して、継続的な支援を行っていきます。

また、地場産物は収穫時期等の関係もあり、1年を通しての使用は難しい面もありますが、農業団体等と綿密な情報の交換を行いながら活用を推進していきます。

書式変更：右 18 字

書式変更：インデント：最初の行：0 字

14	生涯学習課 中央公民館	施策	学習機会の充実
----	----------------	----	---------

## ■ 施策目標

- ① 各種講座・教室・イベントの充実
- ② 青少年・成人・家庭教育の充実

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

- ① 各種講座・教室・イベントの充実

各種講座・教室・イベントの実施状況

※ ( ) 内は平成30年度データ

項 目	実施(回)	募集人数	延べ参加者数(人)	開催曜日	摘 要
手作りパン教室	5 (5)	24	111 (74)	土	継続
そば打ち教室 (ざるそば)	2 (2)	10×2	14 (20)	金・土	継続
親子アクアリウム教室	1 (1)	15組	29 (台風で中止)	土	継続
かわいいりボンかごをつくろう	1	10	17	木	新規
消しゴムはんこ教室	2 (2)	15	17 (22)	土・日	継続
たのしいぬか漬け教室	1	24	30	土	新規
クリスマス・リースをつくろう	1	15	7	水	新規
コーヒーを楽しむ教室	2 (2)	10	19 (28)	土・日	継続
おいしい野菜を知ろう	1	15	8	日	新規
手作りみそ教室 豆みそづくり	1 (1)	24	24 (23)	日	継続
お菓子(タルト)を作る教室	1 (1)	12	12 (12)	土	継続
手作りみそ教室 麦みそづくり	1 (1)	24	24 (22)	日	継続
薬膳茶の教室	2 (2)	12	17 (23)	火	継続
カカオ豆からチョコレートづくり	2	8×2	16	土	新規
一字書を楽しむ	3	12	23	火	新規
体を温める料理教室	1	16	募集定員少で中止	木	新規
手作りみそ教室 米みそづくり	1 (1)	24	24 (38)	日	継続
腸大事講座	1 (3)	12	コロナ感染防止のため中止	水	継続
和菓子(いちご大福)を作る教室	1	12		土	新規
花粉症に効く料理をつくる教室	1	16		木	新規
公民館まつり	2 (2)	—	11,032(11,991)	土・日	5/18・19
民踊講習会	1 (1)	—	294 (286)	土	6/22
ふるさとまつり	2 (2)	—	6,403 (7,752)	土・日	8/24・25

毎年、人気のある講座・教室については継続的に開催し、新規については、多くの幅広い年代層の参加を目標として、近隣市町の情報、来館者からのご意見、メディアやSNSなど多種多様な情報を基に、企画・開催しました。

また夜間や土・日曜日に開催するなど、昼間に働いている人が参加しやすい工夫もしています。

## ② 青少年・成人・家庭教育の充実

### 青少年教育

※ ( ) 内は平成 30 年度データ

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
青少年リーダー養成事業	1 (2)	111 (174)	委託事業
たけとよきっず発行	4 (4)		各小学校を通じて児童へ配布
ものづくり教室	1 (1)	36 (40)	小学4～6年生、協力：J F E スチール(株)
サマーサイエンススクール	1 (1)	33 (35)	小学5年生、協力：ファイザー・ファーマ(株)
わくわく科学実験教室	2 (2)	48 (46)	小学3～6年生、講師：中学教諭
子ども英会話教室	4 (4)	24 (17)	小学3・4年生、講師：武豊町A L T
ゆめたろう塾	22(21)	169 (312)	中学1～3年生、学習支援員：公募
成人式	1 (1)	384 (408)	成人の日の前日(日曜日) 午後に開催
居場所づくり事業	11(12)	225 (263)	委託事業
ここちゃんサポート相談	12(12)	43 組(41)	委託事業

### 成人教育

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
福寿大学	6 (6)	1, 168(1, 127)	講演、健康出前講座など

### 家庭教育

項 目	実施数(回)	延べ参加者数(人)	摘 要
新米お母さんの教室	2 (2)	15 (12)	1歳未満の子を持つ親を対象
子育てリフレッシュ講座	5 (5)	55 (58)	子育て中の親のストレスを解消
親子ふれあいひろば	18(20)	345 組(347)	就園前の子と保護者の学習活動

## ■ 今後の課題と対応

中央公民館での教室・講座のメニューは、シニア・シルバー世代を対象とした内容が多くなる傾向があります。それは教室・講座の参加者には比較的時間にゆとりのあるその年代層が多く、事務局も多くの参加を期待して教室・講座を企画するためです。幅広い年代層(特に若年層)に公民館を利用していただくため、そのきっかけ作りとなる教室・講座について、住民ニーズや情報の収集に努めながら、多種多様な教室・講座のメニューを考え、開催時間帯についても工夫をするなど、幅広い世代が参加できるよう努めています。

青少年教育・成人教育は、生涯学習の基礎を築くという視点に立って、いろいろな学習や体験ができるよう、地元企業や識者の協力も得ながら事業の更なる充実に努めています。

家庭教育では、親が子育てについて学習・相談できる機会を増やしていくとともに、子育てネットワークに準ずる指導者の人材育成に努める必要があります。



親子ふれあいひろば

## ■ 施策目標

生涯学習情報の提供と相談体制の充実

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

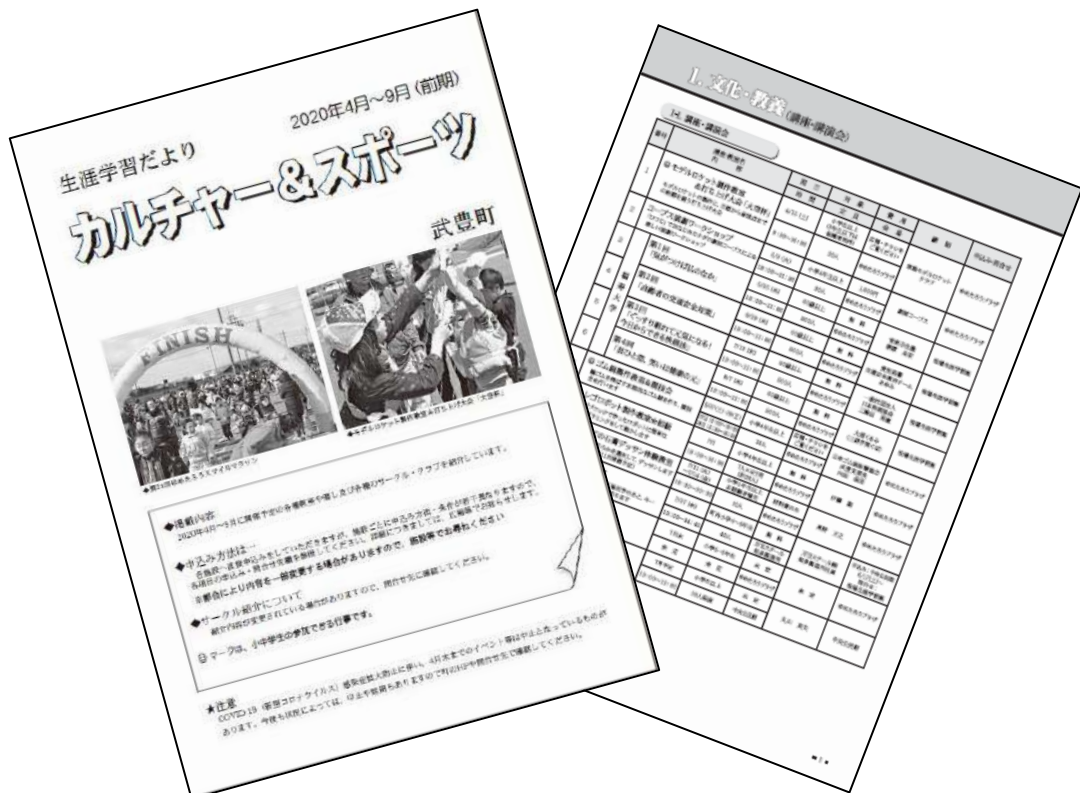
各種教室や催しのお知らせ、各種サークル・クラブを紹介する（サークル紹介は前期のみ）生涯学習だより「カルチャー&スポーツ」を年2回発行し、全戸配布するとともに、教育委員会各施設をはじめ、本庁や富貴支所などに配置し、転入者等にも情報提供を行っています。また、町の広報紙やホームページなど様々な広報媒体を活用して、生涯学習情報の提供に努めました。

相談体制については、それぞれの求めに応じて学習できるよう、担当部署において事業を行い、住民の声を反映できるような体制を整えました。

## ■ 今後の課題と対応

生涯学習について、「カルチャー&スポーツ」の内容の充実を図っていきます。町のホームページや広報紙における生涯学習情報の充実を図るとともに、SNSを活用するなど、これまでの手法を見直しながら、さらなる拡充に努めます。また、ポータルサイトの運用・活用についても検討していきます。

住民からの相談内容は、分野・レベルなど多様化の方向にあり、担当部署の職員は、研修、各種情報交換などを通してより専門性を高める必要があります。また、相談者を的確に担当部署へ導くことが出来るように、部署間の連携や情報共有をより一層図っていく必要があります。



16	生涯学習課 中央公民館	施策	人材の育成と活用
----	----------------	----	----------

## ■ 施策目標

- ① 指導者、ボランティアの育成・活用
- ② 各種団体・NPO・ボランティアグループとの連携

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

- ① 指導者、ボランティアの育成・活用

青少年リーダー養成事業を実施し、子ども会リーダー等 111 人が参加しました。

- ② 各種団体・NPO・ボランティアグループとの連携

青少年教育や家庭教育推進事業等において、JFEスチール(株)やファイザー・ファーマ(株)といった地元企業や各小中学校、PTA、じじばばの会、婦人会などの団体との共催・協力により各種事業を行いました。また、公民館まつり、ふるさとまつりにおいて、各種ボランティア団体で実行委員会を組織し、企画・運営を行いました。

## ■ 今後の課題と対応

地域に多く潜在している人材を発掘・育成し活用することは、人々に活躍の舞台を提供し、地域づくり・まちづくりにもつながるものです。

町民の多様な生涯学習のニーズに対応するためには、「学ぶ」側のみならず、「指導・サポート」の側に立つ人材が必要となります。機能が不十分となっている「生涯学習人材バンク（ゆめたろうバンク）」の再構築をはじめ、人材確保を積極的に推進し、各種講座・教室、行事などにおける指導者やアシスタントとして活用していきます。

そのほか、各種団体をはじめボランティアグループ、地元企業などとの連携、協力関係をさらに推進し、各事業への積極的な参加協力を図っていきます。



サマーサイエンススクール



もちつき大会（家庭教育推進連絡協議会）

17	生涯学習課	施策	青少年の健全育成
----	-------	----	----------

## ■ 施策目標

青少年健全育成事業の推進

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

7月27日(土)に「青少年健全育成推進町民大会」を「社会を明るくする運動推進大会」と共同開催しました。また、町内での啓発活動や有害図書類の回収を実施しました。さらに、「家庭の日」普及推進のため、啓発ポスターの募集展示、親子ふれあい教室の開催、毎月第3日曜日(家庭の日)の前日の土曜日に広報車による巡回活動を実施しました。

義務教育を終えた若者のひきこもり対策について、「子ども・若者育成支援事業委託」として社会福祉協議会と連携しながら活動への支援を行いました。

### 【県民運動の推進】

県民運動	期 間
青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動(夏期)	7/1 ~ 8/31
青少年によい本をすすめる県民運動	10/1 ~ 10/31
子ども・若者育成支援県民運動	11/1 ~ 11/30
青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動(冬期)	12/20 ~ 1/10
「家庭の日」県民運動	2/1 ~ 2/29

## ■ 今後の課題と対応

青少年健全育成推進町民大会の令和元年度入場者数は、106人でした。

これまで以上に青少年の健全育成に寄与する団体等に声掛けをし、多くの人が集まる催しを考えてきましたが、なかなか増加に至っておりません。大会の内容はもとより、PRの手法を含め、より盛会となるよう工夫が必要です。

今後も県民運動に関しては、関係行政機関や各種団体、地域、家庭と密接に連携し、施策がより効果的・効率的に推進できるよう内容を吟味し、活動の意義と町民への啓発方法については、近隣の市町の事例も参考にしながら取り組んで参ります。

子ども・若者育成支援については、国や県の施策とも連動しながら、役場内の関係部局と連携したひきこもりやニートへの切れ目のない対策を考えていきます。



青少年健全育成推進町民大会

18	生涯学習課 中央公民館	施策	生涯学習環境の整備
----	----------------	----	-----------

## ■ 施策目標

- ① 生涯学習関連施設の整備と有効活用
- ② ICT\*の活用による施設利用のネットワーク化

\* ICT = Information and Communication Technology (情報通信技術)

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

- ① 生涯学習関連施設の整備と有効活用

町内の主な生涯学習関連施設としては、中央公民館、ゆめたろうプラザ（町民会館）、総合体育館、図書館、歴史民俗資料館などがあり、多くの住民に利用されています。

中央公民館については、昭和 51 年に建設され、町内の生涯学習施設の中で最も古い施設ですが、平成 25 年度に耐震改修工事及びエレベーター設置工事を実施し、29 年度には講堂の床を全面改修するなど、安全で利用しやすい施設への修繕を図っています。また、平成 28 年度から洋式洗浄機付きトイレへの変更を順次進めており、平成 30 年度からは各部屋の照明の LED 化も順次進めているところです。

一方、現在の利用団体の多くが固定化された減免団体となっている状況であり、利用料の在り方が問題となっています。そのため町内施設の料金設定方針を統一し、平成 29 年 8 月から利用料を改定し、3 年ごとの見直しを始めました。

- ② ICTの活用による施設利用のネットワーク化

県及び市町村で共同開発している「あいち共同利用型施設予約システム」を利用して、中央公民館、総合体育館（運動公園等を含む）でインターネットによる施設予約を導入しています。このシステムは、利用層が比較的若い総合体育館においては活用されていますが、高齢層が比較的多い中央公民館では活用が少ない状況です。

## ■ 今後の課題と対応

- ① 生涯学習関連施設の整備と有効活用

町内の生涯学習施設は、最も古い中央公民館をはじめ多数あります。各施設において、多数の利用者が安全かつ安心して利用できるよう、今後も施設の補強や修繕など時代に対応した設備の改良が必要となってきます。

また、町民全体の平等性を維持していく上からも、公共性の度合いや、負担能力の状況等から、減免制度について見直していくことも必要です。

- ② ICTの活用による施設利用のネットワーク化

施設予約システムに限らずあらゆる部門でのネットによる情報利用が行われている昨今、高齢者を中心としたデジタルデバインド（情報格差）の解消を進める必要があります。

また、愛知県生涯情報システム「学びネットあいち」への情報提供や利用促進を図ることや、「カルチャー&スポーツ」の電子化や、情報発信に Twitter を始めとする SNS を活用するなど、当町の生涯学習情報を ICT で活用する検討も必要です。

19	生涯学習課 歴史民俗資料館	施策	文化財の保護・活用
----	------------------	----	-----------

## ■ 施策目標

天然記念物、遺跡、有形・無形文化財等の保存・継承・公開

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 壱町田湿地植物群落

県指定天然記念物である「壱町田湿地植物群落」については、「壱町田湿地を守る会」の管理協力を得るとともに、「壱町田湿地を守る小中学生ボランティア」の児童・生徒及び教職員の協力をいただき、年間を通じその保全保護・維持管理に努めました。また、湿地の一般公開は、7月から9月に実施し、テレビで紹介されたこともあり、町内外から多くの人に来場いただきました。



#### 【壱町田湿地植物群落一般公開実施状況】

令和元年度	
公開日	見学者（人）
7月21日（日）	82
8月3日（土）	108
8月4日（日）	178
9月7日（土）	136
9月8日（日）	158
合計	662

年 度	見学者（人）
平成27年度	544
平成28年度	618
平成29年度	701
平成30年度	366
令和元年度	662

### ② 三井家住宅

平成27年にその一部が国登録有形文化財となった三井家住宅については、地元住民で構成された団体「三井家住宅を護る会」が、毎月2回の公開事業を実施し、町内外から772人が訪れました。また、護る会の依頼により公開日の情報を町広報誌に掲載しました。

### ③ 有形・無形文化財

有形・無形文化財の保存・継承については、町指定文化財である山車の維持保存事業、祭囃子の伝承者育成事業に対し補助金を交付し、後継者育成・後世への伝承に努めています。

（補助金額）

有形民俗文化財保存維持補助金	11 団体	各 94,000 円
祭囃子等伝承者育成補助金	12 団体	各 51,300 円
有形文化財保存修理事業補助金	申請	0 件
有形文化財保存施設整備事業補助金	申請	0 件



## ■ 今後の課題と対応

壺町田湿地では、湿地周辺の環境変化や、気象変動など様々な要因により、湿地の環境にも大きな影響を受けていると考えられ、今後の保護保全のために、より一層きめ細かな対策が求められます。特に、湧水の確保や水質の維持については、継続的かつ効果的な対応が不可欠であり、湿地内の食虫植物をはじめとする植生の変移についても、専門家の指導助言を得ながら引き続き対処していきます。平成24年3月から愛知教育大学に、シロバナナガバノイシモチソウの遺伝子の多様化を通じた株数増加の取組事業を委託した結果、湿地内の一部、改良を試みた周辺の多様化率の上昇がみられましたが、県内の他の湿地と比較すると多様化率は低く、絶滅の危機を脱したとは言い難い結果であり、今後も遺伝子の多様化の面から監視と改良を継続していく必要があります。

小中学生ボランティアと壺町田湿地を守る会との協働の作業につきましては、昨年までの班分け方式では、途中から参加した児童生徒が入りづらいとの意見を生かし、その都度、守る会の実施する作業を、小中学生ボランティアが植物班、動植物班、清掃班等のグループに分かれて手伝うスタイルとしたところ、2月まで10人以上の生徒の参加があり、改善が図れました。

しかしながら、コロナウィルス拡散防止対策のあおりを受け、3月から小中ボランティアの活動は中止としており、募集に関しても年度前から募集することができず、4月からのスタートは困難な状態となりました。

近隣の湿地等天然記念物の保全団体には、小中学生と一緒に活動している団体は少なく、現在の体系を維持していくために、小中学生が参加しやすい環境づくりに努めます。

その他、有形・無形文化財の保存・継承については、既存の補助金制度等を活用し、今後も文化財の保護と活用の観点から、地域と町が協力して、後世にしっかりと継承できるよう努めます。

20	生涯学習課 歴史民俗資料館	施策	町の歴史や文化遺産の再発見と活用
----	------------------	----	------------------

## ■ 施策目標

町の歴史や伝統、伝説、伝承等の継承とまちづくりへの活用、歴史民俗資料館の事業・行事等の充実

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 展示会の開催

常設展の他に、年2回の企画展示会を開催し、資料館に収蔵する多くの民具等の文化財の公開を行いました。はたおり作品展では、「はたおり友の会」のみなさんの手織り作品の展示とともに、はたおり体験教室を開催しました。むかしのくらし展では町内4小学校の3年生が社会見学に訪れる恒例の企画となっており、元年度は常滑市や美浜町からも来館されました。

展示会名	令和元年度		平成30年度	
はたおり作品展	7/20～8/18	364人	7/21～8/19	440人
むかしのくらし展	12/14～2/9	1,507人	12/15～2/10	1,352人

### ② 教室の開催

資料館にて、「古文書教室」「おこしものづくり教室」など各種教室を開催しました。

教室名	令和元年度		平成30年度	
古文書教室（中級）	第4土曜	延べ116人	第4土曜	延べ95人
おこしものづくり教室	2/22	20人	2/23	12人

### ③ 体験学習の開催

警固山周辺で春のたけのこ収穫を体験する「おじいさんのアウトドア」は、「昔を学び伝える会」の協力により開催しました。一昨年までは秋の芋ほり体験と合わせて年2回開催していましたが、畑を管理する人員を確保することが困難となったため、春のみの開催としました。

教室名	令和元年度		平成30年度	
おじいさんのアウトドア（春）	4/20	34人	4/21	51人
はたおり体験教室	7/27～8/2	30人	7/21～27	30人

### ④ 収蔵資料の保存・管理

民俗資料を始めとする登録済収蔵資料は、現在5万8千点を超過しており、特別収蔵庫や隣接の木造倉庫などで保存管理を行っています。資料の貸出しは、餅つき道具等7件の申請がありました。

## ■ 今後の課題と対応

歴史民俗資料館の責務は、展示内容の充実と収蔵品の保管管理ですが、武豊町の歴史・文化等に対する住民の関心を高めることも大切です。今後も、各種教室や講座の実施を通して、それらの文化（財）的価値や魅力を幅広く伝えるための積極的な取組が必要となります。

資料館の展示内容については、常設展示においては、昭和60年の開館以来、本格的な更新を実施しておらず、DVDの映像内容など時代に見合ったものへの変更が急務です。また装置の老朽化が進み故障が絶えなかった1階展示室のDVD機器及びモニターを更新しましたが、デジタルサイネージを導入するなど、現行以外の既存の映像資料の展示についても検討する必要があります。

企画展示については、収蔵品等の有効活用という点でも、より多くの来館者に見学していただけるような魅力あるテーマの設定やこれまでにない新たな取組が必要です。

体験学習の開催については、本来の目的である子どもにむかしの野山遊びを体験してもらう企画であることを前面に出し、対象を小中学生とその保護者とした結果、前年と比較し4割減となったことから、事業自体の見直しが必要であると考えます。秋の芋ほり体験については、畑を世話していただいていた皆さんの高齢化により、継続が困難となりましたので今後は開催しないこととしました。

はたおり体験も同様に、講師である「はたおり友の会」の高齢化に拍車がかかり、30人いた会員も現在は半数以下になっており、新たな人材確保が急務であります。

21	生涯学習課 図書館	施策	図書館サービスの充実
----	--------------	----	------------

## ■ 施策目標

一人一人の年代ステージにおける自発的な学習、活動を行うための図書・資料・情報の提供

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

平成 24 年度からの指定管理者制度の導入により株式会社図書館流通センター（TRC）が 5 年間の指定管理事業者として運営し、（平成 28 年度の指定管理者選考委員会を経て）平成 29 年度より再び 5 年間の基本協定を締結して、指定管理者制度は導入 8 年目となりました。

図書館の利用状況を判断、比較する指標の一つである住民 1 人当たりの貸出冊数については、令和元年度の数値は 9.1 冊／人（H30:10.1 冊）となり、前年度から大きく減少となりました。

令和元年度の蔵書・資料等の受入冊数は 7,201 冊（H30:7,982 冊）、除籍冊数は 6,853 冊（H30:6,181 冊）、年度末における蔵書数は 241,276 冊です。図書館の資料収容能力はいよいよ上限に達し、受入作業と並行して除籍作業を進めている状況です。

1 年間の予約冊数 13,328 冊（H30:15,261 冊）のうち、インターネットや館内 O P A C（Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録）からの申込みは 8,159 冊（H30:9,134 冊）となり、インターネットサービスも定着してきました。愛知県図書館主導による県内公共図書館横断検索（愛蔵くん）や資料物流（通函）の運用により、愛知、岐阜、三重、福井、石川、富山の各県内公共図書館と連携した「相互貸借」による利用者への資料提供も実施しています。

### 【利用状況】

区 分	令和元年度	平成 30 年度	前年度比
開館日数	267 日	293 日	91.1%
来館者数	173,269 人	198,086 人	87.5%
貸出人数	69,048 人	77,060 人	89.6%
貸出冊数	395,859 冊	437,669 冊	90.4%
登録者数	20,156 人	22,268 人	90.5%
（うち新規登録者数）	1,118 人	1,312 人	85.2%
蔵書数	241,276 冊	240,928 冊	100.1%
予約数	13,328 冊	15,261 冊	87.3%
相互貸借数	1,380 冊	1,558 冊	88.6%

※ 来館者数には資料の貸出利用者の他にも、図書や新聞、雑誌等の閲覧で来館された方や、学習室や展示室、館内イベント等で来館された方の人数も含まれています。

※ 貸出冊数には図書、視聴覚資料のほか、雑誌等の貸出しも含まれています。

※ 貸出登録の有効期限は、最後に利用した日から 5 年を経過した日までとしている。

※ 相互貸借数は、当館が他館から借受けた冊数と、当館が他館へ貸出した冊数の合計。

## ■ 今後の課題と対応

貸出人数1人当たりの貸出冊数（5.7冊／人）については前年度と変化が見られないことから、年間総貸出冊数の減少は、貸出人数（来館者数）の減少に起因するところが大きいと思われます。当年度は、電算システムの更新にともなう臨時休館（9/24～30）があり、さらには新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館（3/5～）が、来館者数に大きく影響を与えました。

現在の課題として資料の充実、とりわけ、開架図書（お客様が自由に手に取って読むことが出来る本）冊数の少なさがあります。指定管理事業者においては、配架（本棚への陳列）方法や、書架の修繕などの工夫により、よりたくさんの図書資料を利用者と結びつける努力を続けていますが、開架率は37%と低く、蔵書の半分以上が閉架図書（利用者が自由に手に取ることの出来ない本）であるというのが現実です。OPAC（オンライン蔵書目録）の利便性向上や、閉架書庫の内覧会の実施、小中学校・保育園などへの閉架児童書の貸出しなど、今後も閉架図書の効率的な活用を図り、図書資料全体の利用増加を目指します。

また、開架室や閉架書庫に限らず、町立図書館全体としての資料収容能力も限界に達しており、年間の受入冊数と除籍冊数が拮抗しています。今後も受入数と除籍数はほぼ同数で推移しますが、資料の除籍については資料個々について重要性、保存の有効性、地域性などを配慮しながら慎重に行っていきます。あわせて、平成29年度より県レベルでの資料保存事業（ラストワン・プロジェクト）に参加しましたので、当町・当館における貴重・重要資料については今後も厳格な保存管理を行うとともに、県内の他館に保存を依存できる資料については効率的な除籍を行い、書庫の有効利用に努めます。

8年度目を終えた指定管理者制度については、受託者においても武豊町における図書館運営のノウハウが蓄積され、現在のところは順調に推移しています。しかしながら、受託者のアイディアによるサービスの向上と、多数のイベント開催による来館者数の増加などにより、これまで上昇傾向にあった利用の各種指標は、ここ数年は頭打ちか微減の傾向が見えています。指標を押し上げていく施策は当然必要ではありますが、臨時休館の影響もあって落ち込んだ住民一人当たり年10冊以上の貸出（年間総貸出冊数／武豊町の人口）を復活させることに重点を置いて、毎年2月に実施（3月に公表）の利用者アンケートの分析や利用者意見の集約なども行いながら、現在の良好なサービスの維持に努めていくことが、まず重要です。

教育委員会としても図書館、出版、情報技術などに関する社会情勢を把握し、将来の町立図書館像についての検討や、住民への図書館サービス向上のために、指定管理者と連携して図書館運営の改善に努めていきます。

また、図書資料や情報を住民に提供するという図書館の基本的機能を根幹とし、利用者の底辺を広げながら（利用促進）、中身の濃い情報提供サービス（質の向上）が継続できるような事業展開を図ります。



22	生涯学習課 図書館	施策	読書推進
----	--------------	----	------

## ■ 施策目標

- ① 子ども読書推進
- ② 図書館行事の充実

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 子ども読書推進

#### 【小学校への資料貸出】

※（ ）は平成30年度

項目	冊数	摘要	貸出期間
貸出冊数	4,982冊 (4,980冊)	町内4小学校	学期単位

図書館の閉架図書を有効利用する観点から、各小学校に対して文学作品を中心とした団体貸出を実施しています。小学校図書室や学級文庫の資料を補てんし、児童の図書への関心を深めるなど、評価を得ています。

他にも、調べ学習の観点から、教科やテーマに沿った資料を団体貸出（期間は1か月）しています。令和元年度は町内小中学校に対して、1,198冊（H30:1,128冊）を貸出しました。

#### 【ブックトークの実施】

ブックトーク（テーマに沿った本の紹介）により、本を仲立ちとして参加した仲間と様々な考え方や発見を共有する機会ができます。また、子どもが本と向き合うきっかけづくりにもなります。本年は依頼のあった衣浦小学校において実施しました。



ブックトーク（衣浦小学校）

#### 【コンクールの実施】

##### 【読書感想文、読書感想画コンクール】

※（ ）は平成30年度

区分	応募人数				合計
	感想文		感想画		
小学校	低学年	364人 (382)	低学年	236人 (233)	2,418人 (2,443)
	中学年	728人 (726)	中学年	261人 (242)	
	高学年	764人 (808)	高学年	65人 (52)	
	計	1,856人 (1,916)	計	562人 (527)	
中学校	1,226人 (1,212)		386人 (352)		1,612人 (1,564)
合計	3,082人 (3,128)		948人 (879)		4,030人 (4,007)

夏休みに親しんだ本の感想を感想文と絵に表現しました。応募作品の中から、「優秀」「優良」「入選」を選定し、図書館フェスタ（11月3日）において表彰式を行いました。

##### 【武豊町立図書館を使った調べる学習コンクール】

（単位：点）

小学1・2年生	小学3・4年生	小学5・6年生	中学生	大人	合計
5 (4)	7 (7)	11 (21)	3 (0)	1 (0)	27 (32)

優秀作品2点は、図書館振興財団主催の「図書館を使った調べる学習コンクール」（全国大会）に出品し、奨励賞と佳作を受賞しました。

### 学校における読書推進計画実施状況

学校毎に特色のある読書活動を実施しています。「朝の読書タイム」など児童・生徒が図書に親しむ時間が設定され、さらには教師、地域ボランティアによる読み聞かせなどの活動も行われています。図書館においては、小中学校における読書活動について資料支援やブックトーク、情報交換などのサポートをしています。

#### 【保育園へのアプローチ】

図書館から町内各保育園へ出前のおはなし会や、えほんかるた大会、テーマに沿った絵本などの貸出には、町内の全ての園より依頼がありました。保育園へのアプローチについても、小学校同様、積極的に取り組みました。



保育園でのおはなし会

## ② 図書館行事の充実

### 【読み聞かせ、お話し会、朗読会】

行 事	実施状況		参加対象者、人数
	開催日	演 者	
おはなしの会	毎週土曜日	おへその会	子どもから大人 5～10人/回
コアラの会	毎週木曜日	図書館スタッフ	乳幼児 15～20組(親子)/回
春のおはなし会	4月21日	図書館スタッフ	26人
味の蔵たけとよ こどもフェスタ	4月27日	図書館スタッフ	21人
図書館のたんじょう日を祝う 夏休みおはなし会&工作会	8月1日	話：おへその会	28人
		工：滝本美代子	29人
夏だ！わいわいおしゃべり劇場	8月18日	ぼっけ	44人
ハロウィンおはなし会	10月27日	図書館スタッフ	52人
大人のための朗読会	5月28日、8月6日 11月19日、2月25日	グループ 空	1回あたり 約18人

各々の「おはなし会」はボランティアの協力もあり、定例行事として定着してきており、参加者数も増加の傾向にあります。

### 【講座・講演等】

行 事	実施状況		参加対象者、人数
	開催日	演 者	
ボードゲームで遊ぼう！	6月15・23日	図書館スタッフ	延べ93人
調べる学習チャレンジ講座	7月6・7日	近藤ひろ子	4人
ライブラリーコンサート	7月13日	Quartet Maschera (名古屋芸術大学生)	67人
たけとよ寄席	9月22日	愛知大学 落語研究会	63人

牧田先生の楽しい おしゃべり文学講座	10月19・26日 11月9日(各土曜)	牧田 利秋	延べ42人
クリスマス ライブラリーコンサート	12月15日	Trio amy (名古屋芸術大学生)	117人
武豊町制65周年コラボ企画 みんなで楽しく健康づくり3B体操	1月18日	増尾 照子	14人
オリジナルノートを作ろう!	1月26日	田中 稔	14人
庄野アナウンサーの 楽しい音読教室	2月2日	庄野 俊哉	43人

### 【図書館フェスタ 2019】

11月3日(文化の日、読書週間の中日)に、読書感想文・感想画コンクール表彰式、図書館を使った調べる学習コンクール表彰式をはじめ、おはなし会、本のリサイクルフェア、ボードゲーム等のイベントを行いました。

### 【その他の行事】

行 事	開 催 日	参加状況
閉架書庫見学ツアー	5月12日、10月14日 (各日、2回開催)	1開催あたり約10人
絵本セラピストによる 絵本セラピー	6月1・16日 12月14・22日	1開催あたり約7人
スタンプラリー2020	2月1日～3月1日	1,134人参加

## ■ 今後の課題と対応

住民からは建物の外観を含め比較的認知度は高い施設であるので、いかにして図書館に足を運んでいただけるか、いかにして来館者を読書(資料利用)に導くことができるのか、を課題として日々の図書館運営を行っています。

子どもの読書活動の推進については、0歳児からティーンズまで、また保育園や学校での読書活動のほかに家庭や地域での読書活動についても着目し、新たな計画策定に向けて現況調査や情報収集を進めます。館内行事については、ボランティアサークル「おへその会」をはじめとするボランティア団体等の地域の力を活用・支援しつつ、図書館自体の専門性や活動実績を基礎とした事業展開を進めます。ボランティアの育成については、読み聞かせ講座などのさらなる充実を図るとともに、新規ボランティアの養成や、図書館業務への住民参加の拡充を進めます。また、「図書館を使った調べる学習コンクール in 武豊」は、子どもたちの「生きる力」「考える力」を育むための事業として、今後も継続的に開催していきます。

人気行事を継続して開催していくなど、今後も図書館の機能や資質が広く町民に理解され、より一層図書館が活用される、指定管理事業者のノウハウを活用した企画・運営を展開していきます。



こども司書体験



23	町民会館	施策	みんなが文化を楽しむきっかけづくり
----	------	----	-------------------

■ 施策目標

みんなが文化を楽しむきっかけづくり

■ 令和元年度の主な取組と成果

NPOたけとよ委託事業で、人気のゆめプラサロンコンサートは年間6公演を実施しており、他の公共ホールと連携することで、質の高いクラシックコンサートを安価な入場料で提供し、気軽にクラシックが楽しめる企画で、安定的な収入が見込める事業です。チケット発売早々に売り切れになってしまった公演があり、追加公演を行うこともあるほど、大盛況でした。また、モーニングコンサート実行委員会の主催事業のゆめプラモーニングコンサートは、地元を中心に演奏活動をしている演奏者の支援と、演奏場所の提供を目的として、公募で演奏者を募ったワンコインコンサートです。これらの事業は初心者でも気軽にクラシック音楽を楽しむことを目的としています。

学校アウトリーチ事業として、町内の4つの小学校の四年生を対象に出前公演を毎年実施しています。令和元年度は、中川賢一さんによるピアノ演奏での授業で、子どもたちは中川さんの演奏を聴いて感じたものを絵に描きました。音楽を聴いて絵を描くという参加型のアウトリーチは、最初は戸惑っていた子どもたちも、次第に伸び伸びと自分の感じたものを表現するようになり、「真剣に遊ぶ」授業になりました。こうした小学校の音楽教育の場で、本物の演奏に触れ文化を楽しむきっかけ作りを行っています。

【有料鑑賞事業】

項 目	30年度		令和元年度	
	事業数	入場者数	事業数	入場者数
町民会館直営事業	4	1,490	6	2,058
NPO主催事業(委託事業)	14	3,047	18	4,474
実行委員会等委託事業	15	3,693	8	1,594
計	33	8,230	32	8,126

【有料鑑賞事業の事業費と入場料】

年度	主催者	A 入場料計(円)	B 事業費(円)	A/B(%)
30年度	町民会館	2,449,500	6,135,163	39.93
	NPO	7,473,200	13,163,616	56.77
	実行委員会	5,503,300	12,193,711	45.13
	計	15,426,000	31,429,490	49.08
令和元年度	町民会館	3,474,400	8,519,269	40.78
	NPO	9,336,700	16,843,602	55.43
	実行委員会	2,198,000	4,398,000	49.98
	計	15,009,100	29,760,871	50.43

日 程	主な公演(事業)名	会 場	入場者数	主催者
4月27日	メイト総会アトラクション 「NORIO.DREAM SESSION！」	輝きホール	189	ゆめプラメイト
5月10日	上野耕平公開レッスン	響きホール	17	NPOたけとよ
5月11日	ゆめプラサロンコンサート2019① 新時代の煌めく才能～若きヴィルト オーゾ～上野耕平(サクソフォン)	響きホール	197	NPOたけとよ
5月12日	MILLEA 星空コンサート	響きホール	146	NPOたけとよ
5月18日	反田恭平&務川慧悟 2台ピアノの競演	輝きホール	658	NPOたけとよ
5月21日～ 5月30日	中川賢一「展覧会の絵」 小学校アウトリーチ	町内 4小学校	434	NPOたけとよ
5月23日	中川賢一 保育園アウトリーチ	町内 2保育園	107	NPOたけとよ
5月26日	中川賢一 ボランティアスタッフインリーチ	練習室	40	NPOたけとよ
5月28日～ 6月2日	第25回武豊町絵画展・小作品展 (6月1日:大原雲峰氏による水墨画実演)	響きホール ミーティング ルーム1・2・3	1,015	実行委員会
6月23日	清水ミチコ トーク&ライブ 201 inたけとよ	輝きホール	629	NPOたけとよ
6月29日	中川賢一 公開リハーサル「展覧会の絵」	響きホール	47	NPOたけとよ
6月30日	ゆめプラサロンコンサート2019② 無限のイマジネーション～時空(とき)を超 えて～中川賢一(ピアノ)	響きホール	147	NPOたけとよ
7月13日	ズーラシアンブラス「音楽の絵本」アミーゴ	輝きホール	617	NPOたけとよ
8月3日～ 8月12日	現代アートの鑑賞事業 2019 中村元道～プロジェクションマッピングと モンスターアート～	ギャラリー	1,425	NPOたけとよ
8月4日	2019 ジョイントフェスティバル愛知 A MANO(ア・マノ)～手によって～	輝きホール 舞台上	76	NPOたけとよ
8月16日～ 8月18日	「ペンギン・ハイウェイ」関連企画 原画展	ギャラリー	601	NPOたけとよ
8月17日	ゆめプラ ONE コイン映画会「ペンギン・ハ イウェイ」～石田祐康監督を迎えて～	輝きホール	541	NPOたけとよ

8月18日	ゆめたろう寄席 納涼の会 柳家喬太郎・三遊亭兼好・柳亭小痴楽	響きホール	198	教育委員会
8月21日	ゆめプラ プレモーニングコンサート (実行委員会企画) ようこそミュージカルの世界へ	響きホール	153	実行委員会
8月31日	陸上自衛隊第10音楽隊ふれあいコンサートinたけとよ	輝きホール	638	日油(株) 愛知事業所 ・実行委員会
9月8日	Swing Band TAKETOYO 第24回定期公演	輝きホール	319	Swing Band TAKETOYO
9月14日	ゆめプラサロンコンサート2019③ 「珠玉の宝石～クロマチックハーモニカ～」南 理沙(ハーモニカ)	響きホール	185	NPOたけとよ
9月18日	ゆめプラモーニングコンサート① インディアンフルート&アイリッシュハーブ の朝のひととき	響きホール	109	実行委員会
9月21日	ゆめっぴ企画 劇団四季ファミリーミュージカル 「カモメに飛ぶことを教えた猫」	輝きホール	614	舞台劇術企画 ゆめっぴ
9月23日	レクチャー講演 Let's ご(Go)詠歌～詠い継がれる心の 調べ～池戸義久(宝乗院住職)	響きホール	195	NPOたけとよ
10月6日	第20回武豊町文化協会芸能祭	輝きホール	延べ 754	実行委員会
10月16日	ゆめプラモーニングコンサート② 愛にまつわるコンサート ～様々な愛の形～	響きホール	93	実行委員会
10月20日	ゆめプラサロンコンサート2019④ 「研ぎ澄まされた感性～新星☆弦楽カル テット～」 カルテット・アマービレ(弦楽四重奏)	響きホール	171	NPOたけとよ
11月2日～ 11月3日	武豊町民文化祭	全 館	延べ 3,400	実行委員会
11月17日	ゆめたろう寄席 豊穰の会 立川談笑・古今亭文菊・柳家わさび	響きホール	197	教育委員会

11月20日	ゆめプラモーニングコンサート③ フルート&ヴァイオリン&ピアノで紡ぐ 中欧の調べ	響きホール	153	実行委員会
11月24日	名作映画鑑賞会 ①グリンチ ②ワンダー 君は太陽	輝きホール	①299 ②201	文化協会
11月30日	文化講演会 2019 河野景子 「晴れのち曇りときどき雨」	輝きホール	604	㈱ J E R A 武豊火力発電所 ・教育委員会
12月7日	ジブリ×ジャズ×ゆめホテル®クリスマス コンサート「JAZZの森」	輝きホール	300	NPOたけとよ
12月18日	ゆめプラモーニングコンサート④ ゆめプラで逢いましょう〜うたざんまい コンサート〜	響きホール	178	実行委員会
12月21日	ゆめプラサロンコンサート 2019⑤ 「情熱のマリンバ〜太古の響き〜」 塚越慎子(マリンバ)	響きホール	185	NPOたけとよ
12月22日	芸術と科学のハーモニー特別講演会 「すごい昆虫を探して世界をまわる」 講師:丸山宗利(昆虫学者)	響きホール	163	実行委員会
12月21日～ 12月22日	武豊町民劇団 TAKE TO YOU 定期公演 伊勢湾台風STORY 「空が落ちてきた日。」	輝きホール	① 474 ② 370 ③ 500	武豊町民劇団 TAKE TO YOU
1月15日	ゆめプラモーニングコンサート⑤ 森本千絵 無伴奏ヴァイオリンの世界 その2	響きホール	140	実行委員会
1月19日	ゆめプラ サロンコンサート 2019⑥ 「遙かなる時代へ〜魅惑の古楽器フォル テピアノ〜」川口成彦(フォルテピアノ)	響きホール	183	NPOたけとよ
1月19日	魅惑の古楽器シリーズ① 川口成彦レクチャーコンサート 今のピアノと何が違う？ 「ショパンの時代の秘密」	響きホール	190	NPOたけとよ
2月1日～ 2月2日	「別の自分に出会いたい！」Part4 右来左往演劇ワークショップ	練習室	11	NPOたけとよ

2月15日	はやぶさ2関連講演会 「はやぶさ2」トークライブシーズン2 ～リュウグウにて奇跡を起こしたミッションの数々。そして地球へ～講師:細田聡史 (JAXA 宇宙科学研究所研究員)	響きホール	184	実行委員会
2月19日	ゆめプラモーニングコンサート⑥ ピアノ協奏曲の世界	響きホール	154	実行委員会
2月22日	R15 大人向け人形劇 人形劇俳優たいらじょうの世界 「毛皮のマリー」	響きホール	172	NPOたけとよ
2月28日	文化のまちづくりセミナー 西村浩の公共空間の使い方が変われば、ひょっとしたらまちは変わるんじゃないかと思っている今日この頃のお話「懐かしい歌とちょっと懐かしい歌」	響きホール	延期	NPOたけとよ
3月1日	宝くじふるさとワクワク劇場inたけとよ	輝きホール	中止	教育委員会
3月7日	魅惑の古楽器シリーズ② フリースペル(fromスウェーデン) 「華やかなるバロックリコーダー」	響きホール	中止	NPOたけとよ
3月8日	Swing Band TAKETOYO 第25回定期公演	輝きホール	中止	Swing Band TAKETOYO

## ■ 今後の課題と対応

NPOたけとよによる学校・保育園アウトリーチ事業は、こどもや若者が文化をより身近に感じ、興味をもって文化に触れ、自ら表現する機会を作り、文化に親しむことを目的としています。今後も各学校・保育園と連絡を密にしながら継続し、本物の芸術に触れる機会を提供していきます。

武豊町民劇団 TAKE TO YOU、Swing Band TAKETOYOの2団体は、平成29年度より、定期演奏会、定期発表会の事業費を委託料に変更し育成期間を終えております。しかし、練習会場の確保や公演諸経費の捻出に苦慮しており、完全な自立は出来ておらず、継続して改善が必要とされます。今後も自立ができるよう指導し、各団体ともに運営改善を促します。

2年に一度の春の音楽祭は、令和2年度、知多半島5市5町ではなく、武豊町単独で「武豊春の音楽祭」として開催予定です。武豊町実行委員会の企画事業については、更により多くの方に春の音楽祭を楽しんでもらえるよう企画の充実や武豊町実行委員会の組織の拡充に努めます。



武豊町民劇団 TAKE TO YOU  
伊勢湾台風 STORY 「空が落ちてきた日。」



Swing Band TAKETOYO  
第24回定期演奏会

24	町民会館	施策	『こども・若者』が豊かな文化の中で育つ環境づくり
----	------	----	--------------------------

■ 施策目標

子ども・若者が文化に親しむ機会づくり

■ 令和元年度の主な取組と成果

「レゴロボット製作教室」などの芸術と科学のハーモニー事業等、子どもたちの創造力を養う事業を数多く実施しました。

舞台芸術企画ゆめっぴは、児童を対象とした舞台芸術の公演で、令和元年度は、劇団四季によるファミリーコンサート「カモメに飛ぶことを教えた猫」を実施しました。町内だけでなく、町外のお客様もたくさん来館され、親子で楽しめる機会になりました。



レゴロボット製作教室の様子



ゆめっぴ企画

■ 今後の課題と対応

地域において子どもたちに継続的に舞台公演にふれる機会を提供するため、舞台芸術の公演（児童を対象としたもの）を実施しました。また、製作・企画能力を高め、専門性の必要となる児童へのアプローチをより効果的に行っていくために、ネットワークをつくり地域文化の活性化を図りました。今後も、こどもや若者が文化をより身近に感じ、興味を持って文化に触れ、自ら表現する機会を作り、文化に親しむ事業を展開します。

25	町民会館	施策	芸術と科学による本物体験
----	------	----	--------------

### ■ 施策目標

住民参加型協働の連携で、芸術と科学のハーモニー事業による本物体験との促進

### ■ 令和元年度の主な取組と成果

NPOたけとよとの協働事業でさまざまな体験講座を行い、芸術と科学のハーモニー事業を行いました。モデルロケット製作教室&打ち上げ大会やサイエンストークでは地元企業の協力で内容も充実しました。また、天文・宇宙関連事業のJAXAの協力によるコズミックカレッジでは、専門的な実験を体験することができる講座を行いました。開催運営に多くのボランティアスタッフが参加し、円滑に事業を行いました。



モデルロケット打ち上げ大会の様子



サイエンストーク（ユタカフーズ）の様子

### 協働による講座・教室

開催日	主な公演(事業)名	会場	参加者数	主催者
4月20日	「天文・宇宙関連」事業 モデルロケット製作教室&打ち上げ大会「大空杯」	創作工房 情報考房 ふれあい広場	製作12 打上のみ1 打上観覧30	NPOたけとよ
6月8,9日	「ものづくり教室」事業 ゴム銃製作教室&競技会	創作工房	延べ20	NPOたけとよ
6月6,2, 29日 7月7日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆初級	創作工房	27	NPOたけとよ
7月9日 ~12日	「レクチャー」事業 はじめての石膏デッサン体験教室	情報考房	延べ40	NPOたけとよ
7月14日	「天文・宇宙関連」事業 星プロジェクト 天体望遠鏡製作教室	和室	18	NPOたけとよ
8月3日~ 8月12日	「レクチャー」事業 現代アートの鑑賞 「中村元道~プロジェクションマッピングと モンスターアート」展	ギャラリー	延べ 1,425	NPOたけとよ

8月3日	「レクチャー」事業 現代アートの鑑賞 「ギャラリートーク&レセプション」	輝きホール ロビー ギャラリー	延べ40	NPOたけとよ
8月10日	「レクチャー」事業 アートレクチャー ガムテープで君だけのダンボールコスチュームをつくろう!!with 魔界帝王デスカイザー	練習室	延べ15	NPOたけとよ
8月9日～ 3月3日	ゆめホテル@アウトリーチ	岡崎市民会館 ほか	延べ 10,376	NPOたけとよ
9月15日	「アニメーション制作体験講座」事業 話し方体験講座～声・滑舌編～	情報考房	20	NPOたけとよ
9月15日	「天文・宇宙関連」事業 星プロジェクト ゆめプラ星空観察会	情報考房 芝生広場	40	NPOたけとよ
9月29日	「天文宇宙関連」事業 JAXAコズミックカレッジ キッズコース「ISS 国際宇宙ステーションの秘密に迫ろう」	響きホール	23組 (46名)	NPOたけとよ
9月29日	「天文宇宙関連」事業 JAXAコズミックカレッジ ファンダメンタルコース「ISS 国際宇宙ステーションの秘密に迫ろう」	響きホール	26	NPOたけとよ
10月19日	サイエンスレクチャー オーロラメッセンジャー 中垣哲也 講演会「くまが命をつなぐアラスカでオーロラを見てみよう」	輝きホール 舞台上	81	NPOたけとよ
10月19日	サイエンスレクチャー オーロラメッセンジャー 中垣哲也 講演会「宙いっぱいのオーロラに包まれてみませんか？」	輝きホール 舞台上	101	NPOたけとよ
10月19日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆オトナ	創作工房	3	NPOたけとよ
10月22日、 11月17日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆中級	創作工房	14	NPOたけとよ
11月23日	「レクチャー」事業 サイエンストーク 日油株式会社 ゲル化の科学「いつもと違うオリジナルスライムを作ろう！」	創作工房	20	NPOたけとよ
12月1日	「ものづくり教室」事業 クラフトラボ「LED ブラックホールを作ってみよう」	創作工房	5	NPOたけとよ
12月8日	「アニメーション制作体験講座」事業 アニメーション制作講座 日用品 de トランスフォーム!	創作工房	13	NPOたけとよ
12月19日～ 12月22日	「レクチャー」事業 石膏デッサンステップアップ教室	情報考房	延べ21	NPOたけとよ
1月18日	「アニメーション制作体験講座」事業 話し方・アフレコ体験講座 話し方体験講座～プレゼン編～	情報考房	9	NPOたけとよ
1月18日	「アニメーション制作体験講座」事業 話し方・アフレコ体験講座 アフレコ体験講座	情報考房 スタジオ	12	NPOたけとよ



1月25,26日	「ロボット製作教室」事業 レゴロボット製作教室☆上級	創作工房	延べ12	NPOたけとよ
2月15日	「レクチャー」事業 サイエンストーク ユタカフーズ株式会社 だしの科学「オリジナルカップ麺を作ろう！」	創作工房	24	NPOたけとよ

## ■ 今後の課題と対応

町民会館は、まちの文化創造活動の拠点として芸術と科学をテーマにした、住民の日頃の学習や練習の成果を発表し、創造の喜びと生きがいを持てるような有意義なイベントや住民が主体的に参加・活動できる事業を展開する必要があります。そのため、住民参画による多様なメニューづくりを行い、住民と行政が協働を実践する場にする必要があります。NPOたけとよのノウハウを活用するとともに、時代のニーズに見合った企画を行います。

また、住民参画によるボランティアについては、参加者自らが考え、職員等と協働で活動していく組織として、鑑賞事業の受付や客席案内等を行うフロントスタッフや広報スタッフ、情報スタッフ及び芸術と科学のハーモニー事業を企画運営するダヴィンチスタッフ等を育成・支援します。

26	町民会館	施策	会館の有効活用の促進
----	------	----	------------

## ■ 施策目標

住民の自主的な学習、創造、発表、交流等の場の提供

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

町民等の自主的な学習、創造、発表、交流等をはじめ、地域の芸術家の創造活動、地域の公共的なイベント、民間事業者の経済的な視点を含めた文化事業等に、大・小ホール、創造スペース、情報スペースなど機能性の高い施設・設備を設置目的に沿って提供しました。

各施設ともに、稼働率に若干の変動はあるものの、利用形態はほぼ定着していますが、開館以来の目標稼働率60%を概ね下回っており、達成できた施設は輝きホール、練習室にとどまっています。前年度よりも稼働率が上がった響きホール・スタジオ・和室は、新規の利用者の方が増えたことも要因になりました。特に、一面ガラス張りの練習室は、和太鼓やピアノ等の楽器の練習やヨガや太極拳などの健康体操、バレエやダンス等に幅広く利用されています。

### 【会館施設の稼働率】

施設名	30年度稼働率 (%)	令和元年度稼働率 (%)
輝きホール	64.5	62.7
響きホール	52.3	53.5
ミーティングルーム	55.8	40.9
創作工房	44.2	35.4
情報考房	40.6	36.6
スタジオ	39.3	47.9
練習室	73.6	71.8
和室	32.6	36.9
ギャラリー	53.5	45.9

## ■ 今後の課題と対応

町民会館の稼働率は自治体の同類施設の中では比較的高い水準にあります。ホールの音響の良さ・使いやすさが周知された結果と考えます。令和元年度は、夏の時期の空調設備不良、3月からの新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時閉館の影響があり、全体の稼働率を下げる要因になりました。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続く可能性があり、利用者の安全を確保できるよう、ガイドラインや利用方法などを随時見直すよう努めたいと思います。

また令和2年度10月には、武豊町民会館使用料の改定を行うため、引き続き利用者への周知徹底に努めていきます。そして、安心安全で快適な施設の提供ができるよう、令和2年度から3か年の計画で天井二次部材の耐震改修を行います。初年度は町民ロビーを行い、続いて輝きホール、最後に響きホールの順番で行います。改修期間が長いため、利用者にご不便をかけることがないように、周知徹底していきます。

27	スポーツ課	施策	町民が生涯を通してスポーツに親しむことができる環境整備
----	-------	----	-----------------------------

### ■ 施策目標

- ① 住民が幅広く参加できるスポーツイベントの開催
- ② スポーツ推進委員の活動支援
- ③ スポーツ関係団体の活動支援
- ④ スポーツ情報の提供

### ■ 令和元年度の主な取組と成果

- ① 住民が幅広く参加できるスポーツイベントの開催 ( ) は平成30年度実績

項目	参加者数	摘要
体力チェック	20人(17人)	握力, 上体起こし, 立ち幅跳び他
たけとよスポーツ Day チャレンジ大会	440人(400人)	スリッパとぼし始め 10種目ほか
たけとよスポーツ Day ウォーカー (ウォーキングイベント)	937人(769人)	ウォーキング3コース
第14回愛知駅伝	27人(27人)	町村の部 6位
第21回ゆめたろうスマイルマラソン大会	2,413人(2,868人)	5マイル始め 4コース
町民体育大会	2,921人(3,450人)	15競技

各種スポーツイベントの実施により、生涯スポーツの推進を図るとともに、住民の健康増進と体力の向上、世代間交流に寄与することができました。



第14回愛知駅伝



たけとよスポーツ Day～チャレンジ大会～

- ② スポーツ推進委員の活動支援

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき設置されており、住民のスポーツ振興に関し、実技指導や普及促進などを行うことを目的としています。

項目	実施回数	スポ推参加者数	摘要
定例会 (月例)	11回	15人/回	事業計画立案等
スポーツふれあい事業 (出前講座等)	17回	延べ65人	福寿園ほか
たけとよスポーツ Day	1回	13人	実行委員ほか
ゆめたろうスマイルマラソン	1回	14人	参加者受付
各種研修会・研究会	5回	延べ48人	東海4県研究ほか



スポーツふれあい事業



スポーツ推進委員研修会

### ③ スポーツ関係団体の活動支援

スポーツ協会の活動支援として17競技部に1,607,000円の補助金を交付し、各大会等の会場提供をしました。また、スポーツ少年団体の活動支援として7団体に157,500円の補助金を交付しました。総合型地域スポーツクラブ(NPO法人ゆめフルたけとよスポーツクラブ)の活動育成の一環としてスポーツ振興事業(各種教室およびイベント開催)を委託し振興を図りました。スポーツ協会は、加盟団体の競技大会、体育功労者表彰式等を始め、たけとよスポーツDayなどのイベントを開催し、町のスポーツ振興に資する活動をしています。

また、スポーツ少年団体も、ジュニアの競技スポーツの推進を図っており、両団体に対する町の活動支援は有効に機能しています。

### ④ スポーツ情報の提供

各種のスポーツ情報は、半期ごとに全戸配布する「カルチャー&スポーツ」を始め、「広報たけとよ」や町・スポーツクラブのホームページ、事業プログラムなどを活用し、広く住民に提供しました。これらに加え、令和元年度から町公式ツイッターが開設され、情報発信の新たなツールの一つとして運用を開始しました。また、施設の空き状況検索や予約は、自宅のパソコンやスマートフォンでできるシステムの運用が定着してきました。

## ■ 今後の課題と対応

本町におけるスポーツイベントは、マラソン大会など多世代の多くの方を対象に実施しており、事業内容や実施種目の変更等、ニーズに合わせた見直しを行いました。スポーツの裾野を広げ、スポーツ実施率を愛知県と同じ目標値の60%まで高めるために、各種の大会や教室の充実はもとより、各地域など身近な場所で誰もがスポーツに親しめる環境づくりを行います。

町非常勤職員のスポーツ推進委員は、これまで地域におけるスポーツ実技指導の一端を担ってきました。今後は、町のスポーツ振興施策の企画立案に参画するとともに、住民の身近な立場からスポーツ振興施策の推進を図る役割が期待されています。特に総合型地域スポーツクラブ(以下、「スポーツクラブ」という。)の育成は、生涯スポーツ社会の実現に向けた国のスポーツ振興基本計画の最重要課題となっており、その活躍が期待されています。

スポーツ協会、スポーツ少年団体など既存のスポーツ組織と、スポーツクラブとの住み分けや協調連携は、今後の町のスポーツ振興における大きな課題です。特にスポーツ少年団体は、スポーツクラブの中心的役割を担うことが考えられ、両者が協働し、相乗効果を生むための仕組みの構築と事業展開を図っていきます。

スポーツ情報の提供には即時性のあるICTの活用が不可欠です。情報格差を生じさせない配慮をしつつ、スポーツクラブと連携してホームページを充実させ、誰でも、いつでも、どこからでもアクセスできる環境整備が急務となっています。また、施設予約について、パソコン・スマートフォンでの申し込みが手軽にできるようシステムの利用促進及び啓発に努めていきます。

28	スポーツ課	施策	総合型地域スポーツクラブの育成支援
----	-------	----	-------------------

■ 施策目標

総合型地域スポーツクラブの育成支援（事業委託）

■ 令和元年度の主な取組と成果

- (1) 会員総数 728人 (753人)
- |    |        |             |       |             |
|----|--------|-------------|-------|-------------|
| 内訳 | 一般会員   | 114人 (119人) | シニア会員 | 80人 (86人)   |
|    | 小中学生会員 | 393人 (416人) | 幼児会員  | 141人 (132人) |

- (2) スポーツ教室 ( ) は平成30年度実績

教室名	開催日・開催数	対 象	会 場	参加者数
キッズトレーニング	4/9～ 2/18 全22回	年中・年長	総合体育館	11人 (18人)
キッズフットサル	4/10～ 2/26 全39回	年長	総合体育館	18人 (20人)
運動だいすきっず	4/11～ 2/27 全42回	年中・年長	総合体育館	17人
卓球	5/19～ 2/23 全20回	小・中学生	富貴中	9人 (13人)
野球	4/13～12/21 全20回	小学生	衣浦小	8人 (6人)
新体操	4/11～ 2/27 全40回	小学4年生 ～6年生	総合体育館	14人 (10人)
忙しい人のヨガ	6/12～3/4 全17回	一般	総合体育館	9人
体のかたい人のヨガ	6/4～ 3/3 全17回	一般	総合体育館	9人
男のヨガ	6/22～ 2/8 全8回	一般	総合体育館	11人

- (3) 体験教室 ( ) は平成30年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
夏季陸上教室	7/22～8/23 全8回	小学生	町内4小学校	延482人 (610人)
親子かけっこ	10/20～11/17 全4回	年少～年長	武豊小	38人
幼児バスケット	1/16～1/30 全3回	年長	総合体育館	30人

- (4) イベント ( ) は平成30年度実績

事業名	開催日	対象	会場	参加者数
ゆめフルキャンプ	8/19～ 8/21	小学3年生 ～中学生	中津川	12人 (12人)
大学生と遊ぼう	11/24	小学2年生 ～中学生	総合体育館	9人 (20人)
ゆめフル体操発表会	9/21	年少 ～中学生	総合体育館	233人 (183人)
Jリーグ観戦	9/21	教室参加者	豊田スタジアム	42人 (48人)
わくわくフェスティバル	9/16	どなたでも	総合体育館	1994人
クリスマスカップ	12/24	小学生	スカイホール豊田	12人



わくわくフェスティバル



忙しい人のヨガ



夏季陸上教室

多様目、多世代、レベルや興味に応じてプログラムが選べるように提供し、多くの住民が日常的に身体を動かす機会を増やすことにより、子どもの体力向上から高齢者の健康づくりまで、現代社会が抱える様々な問題を解決する一助になるように、スポーツクラブ育成の支援をすることができました。

## ■ 今後の課題と対応

住民主体のスポーツクラブが自立的かつ持続的な運営を行うためには、安定して事業が開催できる場所が必要であり、事業を通じてクラブの認知度を高め、不足しているものを検証することが必要です。特にクラブの現在の当面の課題は、「会員の確保（増大）」「指導者の確保（養成）」「財源の確保」「永続的なクラブ経営」などです。

スポーツクラブの運営には、質の高い指導者・クラブマネージャーの確保が必要であり、人材の確保と研修はスポーツクラブの育成と発展にとって重要な課題です。また、これらの環境整備を可能にする財源の確保が行政にも求められており、スポーツクラブが社会体育施設の指定管理者となることにより、運営財源を確保し、管理運営に携わっていくことにより、さらなる地域スポーツの発展にとって重要な役割を果たすことが期待されています。

今後もスポーツクラブが自立的かつ持続的な運営が行えるよう支援を行い、町民の「スポーツ実施率」の向上を目指していくことが必要です。

29	スポーツ課	施策	子どもの体力の向上と青少年健全育成
----	-------	----	-------------------

## ■ 施策目標

- ① スポーツ活動の推進
- ② 安全管理体制の構築

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

- ① スポーツ活動の推進 ( ) は平成 30 年度実績

項目	実施回数	参加者数	期間
プール一般開放	82回(71回)	3,486人(1,703人)	7/20~8/9

猛暑の中、夏休み期間に4つの小学校のプールを一般開放し、健康、体力づくりの向上に努めました。

- ② 安全管理体制の構築

項目	実施回数	内容	会場等
監視員講習会	2回	応急手当法、心肺蘇生法、AED講習	総合体育館

プールは利用者が遊泳等を楽しみながら、心身の健康の増進を期待して利用する施設であり、そのようなプールが安全であるということは、利用者にとって当然の前提となっています。プールの安全を確保するため、施設面の安全確保とともに管理運営面での点検、監視及び管理体制についても徹底した安全対策を講じました。



プール一般開放



監視員講習会

## ■ 今後の課題と対応

子どもたちは本来、日常の様々な生活場面において自然に体を動かすことで、様々な動きを身に付けていきます。しかし、子どもたちを取り巻く環境の変化から、体を動かして遊ぶ機会も場所も減少しています。スポーツクラブ等と協働して機会を提供し既存の施設を活用することで、子どもが安心して生き生きとスポーツに取り組み、「運動ぎらい」の子どもたちが減少するような働きかけが必要です。

30	スポーツ課	施策	スポーツ振興を支える基盤の整備
----	-------	----	-----------------

## ■ 施策目標

- ① 社会体育施設等の整備
- ② 学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の有効利用
- ③ 指導者の育成と支援

## ■ 令和元年度の主な取組と成果

### ① 社会体育施設等の整備

項目	事業費	摘要
運動公園修繕料	1,227千円	グラウンド照明配線改修
運動公園施設営繕工事	1,944千円	送水ポンプ取替修繕
総合体育館施設営繕工事	299千円	トイレ便座取替
総合体育館教材用器具	15,383千円	移動式バスケットゴール購入
屋内温水プール建設用地買収費	506,433千円	宇忠白田11番7 始め17件
屋内温水プール施設整備・管理運営 事業契約の締結	3,872,131千円	施設整備及び15年間の維持管理・運営業務委託等

各社会体育施設の老朽化に伴う必要箇所の修繕工事を行い、利用者の利便性、安全性、快適性の維持向上に努めました。

また、屋内温水プール施設整備に関して、PFI的手法により民間の企画力及び技術的能力を活用して行う方式とし、今年度は事業者の入札および提案に対する評価、選定を行い、落札者を決定し、事業契約を締結しました。また、屋内温水プールを建設するための用地取得を行いました。

### 【社会体育施設等年間利用者数】

( ) は平成30年度実績

項目	年間利用者数	項目	年間利用者数
運動公園	37,635人(32,612人)	弓道場	2,063人(2,524人)
武豊緑地グラウンド	8,100人(7,623人)	総合体育館	157,210人(161,299人)

### ② 学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の有効利用

愛知県教育委員会の協力により県立武豊高等学校体育館・運動場を一般開放しました。

### 【学校体育施設及び教育委員会以外の所管施設の利用者数】

( ) は平成30年度実績

項目	年間利用者数	項目	年間利用者数
学校体育施設(体育館等)	47,741人(55,902人)	同左(運動場)	41,547人(59,222人)
武豊高校体育館	6,097人(6,268人)	同左グラウンド	560人(560人)

### ③ 指導者の育成と支援

指導者セミナーを開催し、指導者の育成、支援に努めました。

特許法律事務所 樹樹

弁護士・弁理士 中村 博太郎 氏

『スポーツ指導者が知っておくべき法律知識』



( ) は平成 30 年度実績

項 目	実施回数	参加者数	摘 要
スポーツ指導者セミナー	1 回	36 人 (30 人)	

## ■ 今後の課題と対応

- ① 社会体育施設の老朽化に伴い、施設の改修、器具の更新の必要性が迫っており、その予算確保と修繕計画が早急の課題です。総合体育館空調設備の更新などの大規模修繕については、中長期財政計画に事業費を計上し、計画的な実施を目指します。

平成 30 年度から 3 年間、総合体育館、運動公園、運動公園第 2 グラウンド、武豊緑地グラウンド、学校施設の開放 (受付事務) に指定管理者制度を導入し、NPO 法人ゆめフルたけとよスポーツクラブが業務を行っています。今後も、提出される報告書等の確認を行い、適切なサービス提供ができるよう指定管理者と連携し、施設運営の改善に努めていきます。また、令和 2 年度をもって指定期間が終了となるため、管理運営状況の点検、評価および更新手続きに向けた準備を進めています。

また、小学校のプールは、築 30 年を超え、老朽化が進んでおり、改修にかかる経費も膨れ上がっています。天候に左右されず学校の水泳指導ができ、多くの住民が、健康保持・増進のために利用できることから、令和 4 年 4 月の屋内温水プール施設の供用開始に向けて準備を進めています。

- ② 現存の社会体育施設のうち一部の施設においては飽和状態となっています。住民が身近な場所でスポーツができるようにするためには、他所管の公共施設及び民間所有の体育施設の有効利用など、活動場所を確保する必要があります。
- ③ 町内にはスポーツ講座・教室の指導者となり得る高度な知識・技術を身に付けている人や、ボランティアとして社会に貢献しようと思っている人が多くいます。これらの方々と、指導者を必要とする団体との情報を共有化することが、地域に密着したスポーツ振興の礎となります。スポーツクラブと連携し、講習会、セミナー等を開催しながら指導者を育成支援していきます。

## 武豊町教育委員会の点検・評価に対する意見および総評（R1度実施分）

### 点検・評価委員会の評価

#### ◎ 学校教育関係

- 来年度から教科となる小学校5・6年生の外国語科（英語）で、子どもたちの英語の力を高めるために、子どもたちが生の英語に多く触れるよう、ALT（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）との会話活動の充実をさらに進めてほしい。
- いじめ不登校への対策は、他の市町と比べて多いからいけない、少ないからいいといったものではないが、武豊町の現状が知多の中でどのような現状にあるのかを知ることが必要である。数字を比較することで課題が見えることもあるのではないかな。
- 通学路の安全確保について、最近の痛ましい交通事故の状況を見ていると心配な気持ち強く、安全確保に向けてはさらに配慮をしてほしい。
- 防犯パトロールで、夜間地域を見回っていると、小中学校の先生が遅くまで仕事をしている姿を見る。働き方改革と言われているが、単純に時間だけ短くしても、仕事自体が減らないと、教員を希望する人がいなくなってしまうのではないかなと思う。
- PTAの立場として、近くで教育の現場を見ていると、対応しなければならない内容の多さを実感する。今は何を改善していくかという考え方よりも、今やっていることを無理なく着実に取り組んでいくという考え方が大切であると感じている。
- 地区の見守り活動をしている中で、小中学生の登下校時に大きな声であいさつをしてくれることをうれしく思っている。その反面、お祭りなどの行事の際に、帰るのが遅くなった子に声かけをしても、なかなか思いが伝わらないことも経験している。どのような声かけが子どもたちの健全育成につながるか、一緒に考えていきたい。

#### ◎ 生涯学習関係

- 図書館の評価について年間総貸出冊数を指標としているが、登録者数で見ることの一つの視点だと考える。また、公民館事業の点検指標として、参加者数のみを示しているが、募集数とも比較することで、今後の課題が見やすくなると思う。
- 生涯学習の実施事業は、参加者数など、数字で評価される部分が多い。現在の施設・環境の中で事業を展開する上で、若年層の参加数減少や講師の高齢化などの課題はあるようだが、利用者が利用しやすいように企画してもらいたい。
- 高齢者の中には、時間に余裕があり、技術や経験を多くもった方も多い。そういった方を掘り起こして、地域事業の活性化につなげてほしい。
- 報告された事業には、自分も興味をもてるものがあった。ただし、今の告知の仕方では、自分から施設の掲示や広報などを見ないと情報が得られない状況にある。メール配信なども活用して、多くの住民に広報をする工夫をしてほしいと思う。
- 事業の中に、参加者が少ないものもあるが、内容によってはとても良いものもある。人数が少ないことですぐに無くすのではなく、周知の仕方、広報の仕方を工夫することで人を集めるように努力をしてもらいたい。
- 歴史民俗資料館については、保管している資料なども使いながら、時期に応じて内容やレイアウトを変えるなどして、リピーターにも対応できるようにしてほしい。

## ◎ 町民会館関係

- 体験学習に関する企画はとても良いものが多い。また、音響など施設面もとても充実している。施設の良さをさらに生かすためにも、他市町との共同企画なども積極的に取り入れていけるとよいのではないか。
- 輝きホールなど、収容人数が大きい施設で集客が少なかった場合などは、PDCAのサイクルを活用して、見直しと改善を図っていけるとよい。

## ◎ スポーツ課関係

- 令和4年度運用開始の町のプールについて、小学校の授業でも活用する方針だと聞いている。移動などの難しさもあると思うが、ぜひ上手に運用をしてほしいと思う。
- 総合体育館の施設予約については、パソコンやスマートフォンなどからの簡易な申し込みの実現は急務であると考え。システムの周知および使いやすさの見直しについても、今後取り組んでほしい。

## ◎ 委員長総評

- 第5次武豊町総合計画や武豊町教育大綱など、教育行政の推進のために柱建てをしっかりとした上で、各部局が施策に取り組んでいるところがよい。また、教育委員会が独立機関としてだけでなく、町長部局との連携を積極的に行っているところが評価できると考える。
- 教育は、その地域に住む人々の人格形成にどれだけ寄与できるかということであり、そこで育てられた人々が町づくりにどれだけ関わっていくようになるのかということであると思う。その基本となるのは家庭教育だと考えるが、そこに対してどのような啓発ができるのかという点についても、今後の取り組みに期待をしたい。
- 教員の働き方改革に関して、教員の働く時間を減らすことにだけスポットを当てて見がちであるが、全体への気配り、目配りをして考えることも必要である。例えば、学校の部活動の見直しが進んだ時に、子どもたちが部活動で費やしていた時間を地域社会がどのように受け入れるのかということも含めて支援を考えていく必要があると考える。
- 平成30年度の武豊町の教育行政について、各委員からの点検・評価については、大きな異存はなかったため、今回各委員から出されたさまざまな今後の課題に向けてはさらに尽力してもらい、町民が暮らしやすい町づくりにつなげてほしい。